

2023年度 講義要綱

科 目	必修 コミュニケーション I 講義	講 師	井上 恵理
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。 ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 ・認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当科目6コマ) 		
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・社会人としての自己像を明確にする。 ・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」鈴木八重子) ・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術③」井上まどか) ・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」武田優) ・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き方を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術②」横山雅代) ・障害者、病児及び高齢者等絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を必要とする人について理解する。(認定:「絵本を紹介する技術③」井上まどか) ・子どもにとって魅力的な絵本に関する空間やレイアウトについて理解する。(認定:「絵本のある空間」飯田有美) 		
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> ・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。 	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点
到達目標2	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養い、進路決定に必要な基本的知識、スキルを活用できる。 	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度50点
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 コミュニケーションプログラム(1) 3 クラス活動(1) 4 カウンセリング 5 クラス活動(2) 6 産学連携 7 セルフコーチング(1) 8 セルフコーチング(2) 9 クラス活動(3) 10 クラス活動(4) 11 クラス活動(5) 12 産学連携 13 クラス活動(6) 14 クラス活動(7) 15 クラス活動(8) 16 オリエンテーション 17 【認定絵本士養成講座科目】「オリエンテーション」担当:鈴木八重子 18 コミュニケーションプログラム(2) 19 【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術③」担当:井上まどか 課題提出 20 就職にむけて(1) 21 産学連携 22 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う③」担当:武田優 23 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術②」担当:横山雅代 24 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術③」担当:井上まどか 課題提出 25 コミュニケーションプログラム(3) 26 クラス活動(9) 27 産学連携 28 【認定絵本士養成講座科目】「絵本のある空間」担当:飯田有美 29 就職にむけて(2) 30 クラス活動(10) 		

必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の専門分野等	井上恵理:専門は臨床心理学。臨床心理士、公認心理師として活動中。 【認定絵本士養成講座担当講師】○鈴木八重子:講座責任者 ○井上まどか:絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者・障がい者、病児、高齢者、特に配慮を要する人及び当該者向けの絵本に精通した者 ○飯田有美:書店における絵本の売り場づくり、及び、絵本の出版流通に精通した者 ○武田優:図書館司書業務と、地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の現状に精通した者 ○横山雅代:書評に関する専門的知識を有する者			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %

2024年度 講義要綱

科 目	コミュニケーションⅡ 必修 講義	講 師	東郷 結香
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての必要な基礎力を高める。 ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 ・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本への理解を深める。(該当科目4コマ) 		
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての必要な知識やスキルを修得し、実践の場で生かそうとする。 ・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・書店における絵本の売り場作りの特性について理解する。絵本の流通について理解する。(認定:「絵本と出会う④」関本練) ・絵本が大人に与える影響について理解する。(認定:「大人の心を豊かにする絵本」細江幸世) ・絵本以外で人を楽しませる為の手法について理解する。(認定:「ホスピタリティについて学ぶ」近藤学) ・認定絵本士養成講座で修得した知識・技能・感性を生かした今後の計画活動について討議することにより、認定絵本士としての役割や行動すべき子とを理解する。(認定:「ディスカッション」なかむらしんいちろう) 		
到達目標1	認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点
到達目標2	保育者に必要とされるコミュニケーション力と、社会人として必要な常識をもち卒業後の将来に向けた具体的な行動ができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 クラス活動(1) 3 就職に向けて(1) 4 認定絵本士養成講座科目(1)「絵本と出会う④」担当:関本練 5 クラス活動(2) 6 クラス活動(3) 7 認定絵本士養成講座科目(2)「大人の心を豊かにする絵本」担当:細江幸世 課題提出 8 認定絵本士養成講座科目(3)「ホスピタリティに学ぶ」担当:近藤学 9 就職に向けて(2) 10 就職に向けて(3) 11 クラス活動(4) 12 クラス活動(5) 13 就職に向けて(4) 14 クラス活動(6) 15 クラス活動(7) 16 オリエンテーション 17 就職に向けて(5) 18 就職に向けて(6) 19 就職に向けて(7) 20 就職に向けて(8) 21 就職に向けて(9) 22 認定絵本士養成講座科目(4)「ディスカッション」担当:なかむらしんいちろう 23 クラス活動(8) 24 就職に向けて(10) 25 クラス活動(9) 26 クラス活動(10) 27 クラス活動(11) 28 クラス活動(12) 29 クラス活動(13) 30 クラス活動(14) 		
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト		
参考文献			

担当教員の 専門分野等	木下裕子:クラス担任、実務経験のある教員 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○関本練:書店における絵本の売り場作り、及び、絵本の流通に出版に精通した者 ○細江幸世:絵本作家、絵本研究者、絵本をめぐる活動に精通した者 ○近藤学:子ども達を対象とした商業施設の従事者 ○なかむらしんいちろう:講座責任者			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2024年度 講義要綱

科目	保育と外国語	必修 講義	講師	玉置 充佳
授業概要	保育で使う基本的な英会話の習得 英語の絵本の読み聞かせに慣れ親しむ 英語の歌と手遊びに慣れ親しむ 初対面の英会話の体験 Show and Tellスキルの体験			
授業目標	保育現場で使われる様々な英語表現をアクティビティを通して習得する。 保育現場で使える手遊びを実演しながら慣れ親しむ。 英会話の基本である初対面会話を実演しながら習得する。 Show and Tell をグループワークで体験する。 英語の絵本を様々なツールを介して慣れ親しむ。			
到達目標1	現場で使える必要最低限の英語表現を使えるようになる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	筆記試験 (50%)	
到達目標2	基本的な初対面英会話と言えるようになる。 現場で使えるアクティビティ体験し、活かせるようになる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	オーラル試験 初対面会話(15%) 発表 自己紹介(10%) show&tell (10%) 提出物 ミニ絵本 (5%) 絵本 (10%)	
授業方法	保育で活用できる実践的英語の基礎知識を学習。 ・保育現場のシチュエーションに合わせた英語のコミュニケーション学習 ・幼児の英語を使った指導に使える基礎知識(歌、絵本の読み聞かせ、Show and Tell)			
授業計画	1 コミュニケーションキー 歌、褒め言葉、自己紹介 2 幼保英語検定 歌、励まし言葉、自己紹介パタパタ絵本と発表 3 オンライン 世界の幼稚園 文の構成 初対面会話 4 Halloween 保育で使う公園での会話” 5 世界のBENTO 保育で使う食事の会話” 6 いろいろなIntelligence フォニックス 7 世界のトイレ 保育で使うトイレ/身支度の会話 8 Valentines 保育で使うその他の場面の会話 9 Online Christmas 総合復習” 10 Easter 総合復習 11 筆記試験 12 Show and Tell 13 絵本の読み聞かせ 14 外国語 15 外国語			
必須テキスト	専用テキスト1冊 English for Use in Nursery Schools 保育園・幼稚園の先生に役立つ英語			
参考文献				

担当教員の 専門分野等	小学校、中学校アメリカにて就学 高校インターナショナルにて就学 [専門指導分野/指導年数] 幼児英語/20年、児童英語/40年、中高英語/30年、一般英語/30年、ビジネス英語/20年、英検/30年			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	25 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	25 %

2023年度 講義要綱

科目	体育講義 必修 講義	講師	真砂 雄一	
授業概要	健康を取り巻く社会状況の中で、国民一人一人が生涯にわたる心身の健康の保持増進を図るためには、疾病の発症そのものを予防するのみならず、ストレス解消やストレスへの抵抗力を増す観点からも、運動、栄養及び休養を柱とする調和のとれた生活習慣の確立が不可欠である。また、生涯にわたって豊かなスポーツライフを送るためには、運動やスポーツについての幅広い知識を身につけておく必要がある。スポーツの意味や素晴らしさに加え、運動技能や体力を合理的に向上させるための科学的知識や方法を学び、スポーツの歴史や文化的意義などを総合的に捉え、体育の必要性を考えていく。			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたり有意義な人生を送るために、健康なライフスタイル(生活様式)を確立することは重要であり、そのための健康・スポーツについての基礎知識を身につける。 ・誕生からの一生涯にわたるからだの発達と加齢のプロセスを理解できるようになる。 ・授業で修得した知識や態度が、個人の日常生活で活用され、より健康で豊かな生活が営めるようになる。 			
到達目標1	健康・スポーツについての基礎知識を身につけ、理解し、具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(15点)、講義内容に関する小レポート(20点)	
到達目標2	誕生からの一生涯にわたるからだの発達と加齢のプロセスを理解できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(15点)、講義内容に関する筆記試験(50点)	
授業方法	授業は、オンラインで行う講義と対面での講義・演習のアクティブラーニング・スタイルで行う。授業で学んだ知識を日常生活に取り入れ、自身の健康について考える機会としてもらいたい。 ※社会情勢や進行状況に合わせ内容や順番を適宜変更する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス・スポーツとは 2 遊具と安全環境 3 様々な環境下における運動 4 年代別に応じた運動の指導法 5 トレーニング(オンライン) 6 産学連携 7 幼児期に必要な運動 8 応急処置 9 人体の構造と機能 10 運動と健康 11 生活習慣病(オンライン) 12 産学連携 13 体力 14 運動神経とは 15 まとめ、振り返り 			
必須テキスト	特になし(授業中に配布、オンライン上に資料を掲示)			
参考文献	授業内で適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。現在短大にて、幼児体育や健康を担当する准教授として勤務。小学校で体育テクニカルアドバイザーの経験あり。保育園にて運動指導アドバイザー。専門分野:幼児体育、身体表現、健康科学			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	30% %

2024年度 講義要綱

科目	体育実技 必修 講義		講師	高見 美恵子
授業概要	乳幼児期・児童期に必要かつ効果的な、「コーディネーション運動」及び、子どもたちが楽しみながら参加するための実践技法である、「共感するコーチング」について理解し実践できる技能を身につける。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コーディネーション運動と関連する科学的根拠についての知識を習得する。 2. 共感するコーチングと関連する科学的根拠についての知識を習得する。 3. 共感するコーチングを活用しコーディネーション運動を実践する。 4. 立てたねらいに沿った実践案を作成し実践する。 			
到達目標1	コーディネーション運動と共感するコーチングおよび関連する科学的根拠について具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、講義内容に関する筆記試験(30点)	
到達目標2	各コーディネーション能力を向上する実践案の作成と共感するコーチングを活用した実技の実践ができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ学習の主体性(15点)、実践案(15点)、実技試験・振り返りシート(20点)	
授業方法	実技、グループ学習、オンライン授業を含む			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持物等の説明、授業の進め方の確認) 2 乳幼児期・児童期におけるコーディネーション運動の重要性 3 コーディネーション運動【5つの能力】 4 コーディネーション運動【5つの形式】 5 コーディネーション運動【遊びの4要素】 6 実践技法【共感するコーチング理論】① 7 実践技法【共感するコーチング理論】② 8 コーディネーション運動の展開 9 筆記試験 10 実技試験チーム分け、実践案作成① 11 実践案作成② 12 実践案作成③と練習 13 実技試験と振り返り① 14 実技試験と振り返り② 15 実技試験と振り返り③ 			
必須テキスト	楽しみながら運動能力が身につく！ 幼児のためのコーディネーション運動 明治図書出版株式会社			
参考文献				
担当教員の専門分野等	「実技経験のある教員による授業」に該当。 保育園・地域学習センター・児童館・主催教室などの親子・幼児・児童・シニア対象講座にてコーディネーション運動講師を担当。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

2023年度 講義要綱

科目	日本語		必修 講義	講師	橋本 千鶴
授業概要	人間の言語能力である「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの特徴を理解し、保育者として求められる基礎的な言語能力の向上を目指す。実習や保育現場での対応を想定して、4つの言語能力を具体的な場面から考える。				
授業目標	1.「話すこと」自分の考えや思いを分かりやすく表現する。 2.「聞くこと」相手の言いたいことを的確に把握する。 3.「書くこと」自分の伝えたいことを明確に表現する。 4.「読むこと」書いてある内容を正確に理解し、適切に口頭で表現する。				
到達目標1	自分の考えや思いを、相手意識・目的意識を考えて適切に表現することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、課題・発表・レポート(40点)		
到達目標2	話し手や書き手の言いたいことを正確に理解し、自分の考えを明確にすることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、課題・レポート(20点)		
授業方法	保育者に必要な4つの言語能力について、グループワーク・ディスカッション等の体験や実技を通して実践的に学ぶ。				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価他)・【話】自己紹介・【聞】素話の紹介 2 【書】文字の正しい書き方(平仮名・漢字他) 3 【書】観察記録・実習日誌の書き方 4 【書】連絡帳の書き方 5 【書】原稿用紙の使い方・小論文の書き方 6 産学連携 7 乳幼児の言葉の発達と言語表現 8 【話】素話の発表・【話】保護者への話し方 9 【聞】カウンセリングマインドに基づく話の聞き方(1)(言語的技法) 10 【聞】カウンセリングマインドに基づく話の聞き方(2)(非言語的技法) 11 【話】子どもと楽しむ言葉遊び(1) 12 産学連携 13 【話】子どもと楽しむ言葉遊び(2)(模擬保育) 14 【読】文章の読み方(音読)・【読】絵本の読み聞かせ 15 【読】昔話(解釈と言葉のおもしろさ)				
必須テキスト	特になし。				
参考文献	授業で適宜紹介。				
担当教員の専門分野等	小学校教員として長く勤務し、国語・ことば分野を重点的に研究。日本カウンセリング学会認定カウンセラー。大学等で、言葉・言語文化表現・教育相談(カウンセリング)等の授業を担当。「教師・保育者のための教育相談」(共著・萌文書林)を出版。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	20% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	30% %	

2024年度 講義要綱

科目	情報機器の操作 必修 講義		講師	大崎 健一
授業概要	パソコン及びオフィスソフトの基本操作、プレゼンテーション技法、ITリテラシーの基礎について学習する。また、平行して、個人の「考える力」を伸ばす授業を実践する。			
授業目標	オフィスソフト (Word、Excel、PowerPoint) の基本的操作やプレゼンテーションの基本技法を理解し、実務での活用できるようになる。 ITリテラシー (情報モラル、コンピュータ、ネットワーク) を理解し、インターネットやIT機器を安全に活用できるようになる。			
到達目標1	・Word、Excel、PowerPointを用いて、基本的な資料が作成できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	・授業の課題提出 (50%)	
到達目標2	・情報モラルを学び、インターネットを安全に活用できる。 ・コンピュータ、ネットワークを学び、IT機器を安全に活用できる。 ・PowerPointを用いたプレゼンテーションができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	・リアクションペーパーの提出 (20%) ・最終課題 (プレゼンテーション) の提出、発表 (30%)	
授業方法	PC操作の実習、及びオンラインによる座学。適宜、グループワークを取り入れる。 最終課題では、プレゼンテーションを実施する。			
授業計画	1 オリエンテーション、パソコン基礎操作 (マウス操作、エクスプローラー、日本語入力) 2 Word (基本操作) 3 オンライン (情報モラル1) 4 Word (ビジネス文章) 5 Word (画像や図形) 6 Excel (基本操作) 7 Excel (書式設定) 8 Excel (関数①) 9 オンライン (情報モラル2) 10 Excel (関数②) 11 Excel (グラフ) 12 PowerPoint (基本操作) 13 PowerPoint (発表準備) 14 PowerPoint (発表準備) 15 発表			
必須テキスト	なし。資料はTeamsで事前配布。操作に不安がある人は印刷しておいてください 学校のPCでTeamsにログインするので、IDとパスワード			
参考文献	なし			
担当教員の 専門分野等	IT企業にて、エンジニアからマネジメントまで従事、現在はIT講師及びITのWeb教材開発を行う。修士 (日本語教育学)、わかりやすい日本語やIT日本語についての研究・発表を行う。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

2023年度 講義要綱

科目	保育原理	必修 講義	講師	小澤 由理
授業概要	保育者として基礎的な保育の事項を学ぶことを目標に、保育の歴史・思想を通じて保育の目的や意義を理解するとともに、保育に関する法や制度、保育の内容と方法、そして今日的求められる保育者の在り方について理解する。保育の内容と方法については、保育所保育指針を基礎としながら、幼児の発達の特徴を学ぶとともに、具体的な保育指導計画をもとに保育記録を作成することで、保育者に求められる考え方や態度について理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義及び目的について理解する。 2. 保育に関する法令及び制度を理解する。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史の変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について理解する。 			
到達目標1	保育の歴史、思想および実践的な原理を理解し、保育職の意義を理解し、倫理観を高める。保育の内容構成や基本方針を理解し、現代における保育の在り方と、保育現場に求められている内容について理解する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(10%)+小課題・試験(40%)	
到達目標2	保育の原理一般に関する正しい知識を踏まえ、具体的な保育の現場を想定し、自らで保育の記録を取り、ドキュメンテーションとしてまとめ、発表・議論することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	課題への取り組み(10%)+課題(ドキュメンテーション)の提出(40%)	
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを使ったスライドを活用した講義を中心に、プリント・資料を配布する。またグループフォームを活用した小課題の提出や期末には試験課題を実施する。 ・授業の後半にドキュメンテーションの作成・発表・議論を行う。 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 この授業の内容や方法について説明する。課題や採点方法についても説明する。 2 現代の保育の基本的な思想である、ルソー、フレーベル、倉橋惣藏の保育思想に触れ、理解を深める。 3 現代の保育に関する法律・施設の種類について理解をする。また保育所保育指針における養護と教育の一体化の在り方や、乳児保育の3つの視点、幼児保育の5領域について知る。 4 保育所保育指針に基づき、現代の保育に求められる保護者支援や子育て支援について知る。 5 保育所保育指針に基づき、乳児の発達の在り方と望ましい関わりについて知り、保育者に求められる保育観の基礎を築く。 6 産学連携 7 保育所保育指針に基づき、幼児の発達(1歳児～2歳児)と望ましい関わり方について知り、保育者に求められる保育観の基礎を築く。 8 保育所保育指針に基づき、幼児(3歳児～5歳児)の発達と望ましい関わり方について知り、保育者に求められる保育観の基礎を築く。 9 現代の保育に求められる保育施設の最低設置基準や、様々な保育場面や保育方法で用いられる環境構成について知る。 10 保育課程について理解を深め、指導計画に基づく保育の実践の在り方について知る。 11 指導計画の作成のための保育記録の在り方について知り、その手法の一つであるドキュメンテーションの実践に触れる。 12 産学連携 13 保育記録の手法の一つであるドキュメンテーションを作成する。 14 ドキュメンテーションを発表し、互いに議論する。 15 試験課題に取り組み、本科目で学んだことをふり返る。 			
必須テキスト	小田豊・神長美津子・箕輪潤子『保育原理』光生館2019年 その他、授業時にプリントを配布する。			
参考文献	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
担当教員の専門分野等	西洋・日本の女性教育史の研究。保育実習指導に関する研究。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち学び続ける力	20% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	20% %

2023年度 講義要綱

科目	教育原理 必修 講義	講師	久島 裕介	
授業概要	「教育とはなにか」という問いをめぐる様々な知識を学びます。また、現代的な教育課題についても学びを深めていきます。			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する様々な歴史・思想・制度・組織・実践・社会の諸領域との関わりなど幅広い知識を習得する。 ・習得した知識を現代の教育課題につなげて一人ひとりが考えを深められることを目指す。 			
到達目標1	教育に関する基礎的な事項について理解し、自分自身の教育観について考えを深めることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	毎回のリアクションペーパー(20点)、講義内容に関する筆記試験(30点)	
到達目標2	授業の中で考えたことについて自分の言葉で表現することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	毎回のリアクションペーパー(20点)、発表・レポート(30点)	
授業方法	基礎的な事柄については講義形式で授業を行い、視聴覚教材を用いることもあります。また、グループワークやディスカッションも行う予定です。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション:「教育」とはなんだろう 2 「子ども」とはどのような存在なんだろう 3 「教師」の仕事とその役割とはなんだろう 4 海外での教育にはどのようなものがあるか 5 「教え方」「学び方」を考える 6 産学連携① 7 近代の教育思想、学校とはどのようなものか 8 子どもの「遊び」や「学び」とは何を意味するのか 9 子どもの学びはどう「評価」すればいいのか 10 子どものための学校とはどのような学校か 11 日本において学校と地域社会はどのように関わっているのか 12 産学連携② 13 子どもの教育を支える制度などにはどのようなものがあるか 14 子どもを取り巻く「教育の現代的課題」について考える 15 まとめ:あらためて「教育」とはなんだろう 			
必須テキスト	特に指定しません。授業中に適宜紹介します。			
参考文献	特に指定しません。授業中に適宜紹介します。			
担当教員の専門分野等	専門分野: 日本教育史、教員史。東京大学大学院教育学研究科博士課程、修士(教育学)。 教育活動: 小学校における特別支援教育支援員、福島県の中学・高校における学習支援活動。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	25% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	15% %

2023年度 講義要綱

科目	子ども家庭福祉 必修 講義		講師	荒田 直輝
授業概要	本授業では①子どもと子育てをする者を取り巻く環境についての理解を深めること②子ども家庭福祉について関わる施設や機関について学ぶこと③エンパワメント・ストレングスの概念から子ども・家庭に関わる保育者の専門性の特徴を掴むことを目的とする。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。 			
到達目標1	子ども家庭福祉における基礎的な知識を身につけること及び興味・関心を持つことを目標とする。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(出席状況も加味・75点) 小レポート(25点)	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	パワーポイント・映像資料などを用いた講義形式。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 「子どもの権利」とは 3 子ども家庭福祉の歴史的展開 4 現代社会における「子どもと生活」 5 子育てをめぐる問題① 6 産学連携 7 子育てをめぐる問題② 8 保育サービス① 9 保育サービス② 10 子どもの遊びと福祉①(児童館とは) 11 子どもの遊びと福祉②(学童保育とは) 12 産学連携 13 子どもの遊びと福祉③(冒険遊び場とは) 14 子どもの居場所と福祉 15 子ども・若者の社会参加・参画 			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	特に指定なし			
担当教員の専門分野等	子ども・若者支援、プレイソーシャルワーク、遊びと福祉。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	40 %
	社会人としての基本	0 %	主体性 素直 思いやり	0 %
	他者と関わる力	0 %	専門的知識・技術	30 %

2023年度 講義要綱

科 目	社会福祉 必修 講義		講 師	久利 要子
授業概要	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、相談援助の実際について学ぶ。 子ども家庭支援の視点に立ち、最新動向をふまえて現場の実践に関連づけながら学習する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者保護の仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。 			
到達目標1	1. 子育て家庭の生活課題について、現代の社会状況をふまえて広い視野で考えることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、講義内容に関する筆記試験(25点)	
到達目標2	2. 相談援助や利用者保護の仕組みを理解し、社会福祉の今後の展望に自らの関心を向けていくことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	提出課題(20点)、講義内容に関する筆記試験(25点)	
授業方法	講義形式。テキストの内容に関連する統計資料やプリント、映像教材なども活用していく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・社会福祉の理念と概念 2 社会福祉の歴史の変遷 3 子ども家庭支援と社会福祉 4 社会福祉の制度と法体系 5 社会福祉の実施機関 6 産学連携 7 社会福祉の専門職 8 相談保障及び関連制度の概要 9 相談援助の理論 10 相談援助の意義と機能 11 相談援助の対象と過程 12 産学連携 13 相談援助の方法と技術 14 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み 15 今後の展望・学習のまとめ(筆記試験) 			
必須テキスト	『九訂 保育士をめざす人の社会福祉』相澤譲治編、株式会社みらい			
参考文献	『社会福祉小六法2023』ミネルヴァ書房 など(授業中に適宜、紹介します。)			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育士、社会福祉士として母子生活支援施設や高齢者在宅支援の現場で相談業務を経験し、「ソーシャルワーカーとしての保育士の役割」を研究テーマとしている。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	30% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	20% %

2024年度 講義要綱

科 目	子ども家庭支援論 必修 講義		講 師	前川 洋子
授業概要	家庭という視点から支援のあり方を理解する。家庭生活を取り巻く様々な社会的状況について把握し、問題の所在や支援方法を学ぶ。社会福祉の視点も含み、家庭支援の基本的な知識と専門性について学ぶ。			
授業目標	1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。			
到達目標1	家庭支援を基盤に保育士の行う相談等の意義と資源の活用、関係機関との連携を説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、理解度確認の小テスト課題(30点)	
到達目標2	ニーズに応じた多様な支援の展開と家庭支援の現状、課題を説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(20点)、発表・レポート(30点)	
授業方法	講義型 ICTを活用した理解度チェックとフィードバックを行う。地域の子育て家庭支援策のレポート提出と発表を行います。			
授業計画	1 1.オリエンテーション 子ども家庭支援の意義と必要性 2 2.家族システムと家庭 家庭機能の低下 3 3.保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 4 4.保護者との相互理解と信頼関係の形成 5 5.保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 6 6.支援における保育士の基本的態度 7 7.子育て家庭の抱える課題の理解と支援家庭の状況に応じた支援 8 8.地域の資源の活用と自治体・関係機関との連携・協力 9 9.子育て家庭の福祉を図るための社会資源 10 10.国策・自治体の子育て支援策及び子ども家庭支援に関わる法律 11 11.多様な支援の展開と関係機関との連携 12 12.保育所等を利用する子どもの家庭への支援 13 13.地域の子育て家庭への支援 レポート発表1 14 14.要保護児童等及びその家庭に対する支援 レポート発表2 15 15.子ども家庭支援に関する日本の現状と課題 世界の子育て支援国際比較より 総まとめ			
必須テキスト	松本園子、永田陽子他『子ども家庭支援論』ななみ書房 2023年			
参考文献	谷田貝公昭 監修 和田上貴昭 他編著 『子ども家庭支援論』一藝社 2020年			
担当教員の専門分野等	教育カウンセラーとして子育て相談員及び社会福祉法人の第三者委員。大学通信教育テキスト『こども家庭支援論』『特別支援教育』他、『保育の心理学演習ブック』ミネルヴァ書房他出版			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	40 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2023年度 講義要綱

科 目	社会的養護 I 必修 講義		講 師	北川 裕子
授業概要	社会的養護の役割や援助内容を学ぶ。			
授業目標	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。			
到達目標1	現代社会における社会的養護の意義や課題について理解できる。 保育士として必要な人権意識がもつことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(10点)、提出物(40点)	
到達目標2	子どもの人権を尊重すること、自立を支援することとは何か、事例を用いながら学ぶ。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(10点)、提出物(40点)	
授業方法	講義を中心に、保育現場での実践力を身につけられるよう事例研究やロールプレイ等の学習も行う。			
授業計画	1 社会的養護とは？(理念と概念) 2 社会的養護の歴史 3 子どもを取り巻く状況と社会的養護の意義・役割 4 児童観の変遷、子どもの権利擁護と社会的養護 5 施設内虐待の防止 6 産学連携 7 児童虐待 8 社会的養護の制度と法体系、仕組みと実施体系、社会的養護に関わる専門職 9 養護の基本原則 10 家庭養護 11 施設養護の実際(支援内容) 12 産学連携 13 施設養護とソーシャルワーク 14 運営管理(措置制度と利用契約制度、倫理の確立など) 15 社会的養護と地域福祉、今後の展望			
必須テキスト	図解で学ぶ保育「社会的養護 I」原田旬哉他編著 萌文書林 「ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック」中央法規			
参考文献	参考資料は授業時に紹介。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。児童養護施設勤務経験あり。 児童家庭福祉・社会的養護分野を研究。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	15% %
	社会人としての基本	15% %	主体性 素直 思いやり	15% %
	他者と関わる力	15% %	専門的知識・技術	20% %

2024年度 講義要綱

科目	保育者論 必修 講義	講師	石原 成
授業概要	教科書に基づき、保育者としての力量形成やその在り方について理解し、保育者としての自分の姿を明確にする。		
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者の役割と倫理的配慮について理解する。 2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。 3. 保育士の専門性について考察し、理解する。 4. 保育者の連携・協働について理解する。 5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。 		
到達目標1	保育者(幼稚園教諭、保育士、保育教諭)の職務内容や専門性について理解し、保育の実践への構想が出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、授業内での課題(20点) (授業態度や出席状況等)
到達目標2	保育者になるための自分の課題や今後のキャリアについて理解し、理想を説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、まとめのレポート(20点) (授業態度や出席状況等)
授業方法	教科書を基に作成されたパワーポイント資料を使う講義方式 講義内容に沿ったグループワークや話し合い、保育演習		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(自己紹介・シラバスの確認) 専門職としての保育者を知る(1) 保育者になるということ 2 専門職としての保育者を知る(2) 法令から見た保育者の異同と役割・責務 3 保育者の資質向上と研修を知る(1) 保育者に求められる専門性について(子ども理解・実践力) 4 保育者の資質向上と研修を知る(2) 保育者に求められる専門性について(人権について・特別な教育的配慮の理解) 5 保育者の資質向上と研修を知る(3) 保育者に求められる専門性について(得意分野の探究) 6 保育者の資質向上と研修を知る(4) 保育者に求められる専門性について(得意分野の発見と保育の実践の構想) 7 保育実践の場を学ぶ(1) 保育者の職務内容の整理と理解 8 保育実践の場を学ぶ(2) 環境構成と教材研究について 9 保育実践の場を学ぶ(3) 様々な保育形態とチーム保育 10 保育実践の場を学ぶ(4) 保育記録の意義と種類 11 保育実践の場を学ぶ(5) 保育記録の書き方と振り返りの視点について 12 保育者としての専門的成長(1) 専門的に成長する必要性 13 保育者としての専門的成長(2) 家庭や地域社会との連携、子育て支援 14 保育者としての専門的成長(3) カリキュラム・マネジメントの必要性 15 まとめ 今後の保育者に求められる在り方 質疑応答等 		
必須テキスト	保育者論－保育者としての専門的成長を支える－ 光生館		
参考文献	授業内で紹介		

担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。私立幼稚園勤務14年。 保育現場における、「教育課程」の立案と「保育記録」について、研究。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2023年度 講義要綱

科目	保育の心理学 必修 講義		講師	小沢 恵美子
授業概要	保育所にいる乳幼児期を中心に、子どもの発達について学習する。 今までの自分の経験と授業内容を関連させて、子どもの行動や人間の発達を理解する。			
授業目標	子どもの発達に関する心理学の基本的知識を学び、発達心理学の知識を習得する。 自分が保育者となった時のことを考えながら、授業内容を理解する。			
到達目標1	子どもの発達に関する心理学の基本的知識に基づき、 子どもの発達について具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記期試(55点)	
到達目標2	自分が保育者となった時のことを考えながら、子どもや 保護者への具体的な対応を述べるができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組みやリアクションペーパー(15点)、レ ポート(30点)	
授業方法	テキストを使いながら、授業内容をプリントにまとめていく。 可能であれば各自の考えを発表する機会なども設ける。			
授業計画	1 ガイダンス、子どもの発達と環境 2 情緒の発達 3 自我の発達 4 愛着の形成 5 愛着行動と愛着の発達 6 産学連携 7 社会的相互作用 8 認知の発達① 9 認知の発達② 10 コミュニケーションの発達 11 乳幼児期の学びにかかわる理論 12 産学連携 13 動機づけ 14 発達障害について 15 全体のまとめ			
必須テキスト	『保育の心理学 実践につなげる、子どもの発達理解』井戸ゆかり編著、萌文書林			
参考文献	授業中に適宜紹介します。			
担当教員の 専門分野等	発達心理学や教育心理学の授業を担当してきました。発達心理学でも「子ども(幼児期)」の分野に興味があります。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	15% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	15% %
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	30% %

2024年度 講義要綱

科 目	子ども家庭支援の心理学 必修 講義		講 師	藤高 直之
授業概要	様々な福祉施設の実習経験から、各現場の「実際の支援/実践」の様子、「支援の視点」「支援の特徴」等、学びをまとめて発表し、他者と共有する。子ども、子育てをめぐる現状や、多様な支援の在り方への理解を深める。			
授業目標	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。			
到達目標1	自らが実習した現場の実践や、支援特徴についてまとめ、発表することができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	グループワークへの参加姿勢(25点)、貢献度(25点)、発表(20点)	
到達目標2	自他の発表から学び、自らの考えや適性、自らが目指す支援者像について考察できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	各発表後の振り返りシート(15点)、学期末まとめシート(15点)	
授業方法	発表資料、コメント作成を伴う講義受講			
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・方法・評価・持物等の説明) 2 グループワーク(各自の経験、グループ内共有) 3 グループワーク(発表に向けて) 4 グループワーク(発表資料の作成) 5 グループワーク(発表資料の作成) 6 発表① 7 発表② 8 発表③ 9 発表④ 10 発表⑤ 11 発表⑥ 12 発表⑦ 13 後輩への発表 14 ゲストスピーカー等(支援の実際) 15 まとめ			
必須テキスト	特になし			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
担当教員の 専門分野等	子ども家庭福祉(主に子育て支援)が専門。大学教員と並行して社会福祉士及び保育士として、大学付属の子育て支援センターで活動中。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	25 %

2023年度 講義要綱

科目	子どもの理解と援助 必修 講義		講師	井上 恵理
授業概要	様々な児童福祉施設で生活する子ども達の様子、現状を学ぶ中で、子どもの「発達」を捉える視点を養う。子どもの健やかな発達に必要な「環境」と「関わり」について理解を深め、その担い手になるための準備を進める。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する 			
到達目標1	子どもの育ちを支える児童福祉施設について、主要施設の概要や現状について説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記試験(40点)	
到達目標2	子どもの育ちを支える児童福祉施設への興味を養い、担い手となる自分をイメージし、自らに必要な準備を進めることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、講義内容に関するレポート試験(40点)	
授業方法	ワークシートを用いた講義			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション:「子どもの理解とは？」(授業概要・目標・評価・持物等の説明) 2 子どもの育ちを支える現場を知る 3 子どもの育ちを支える現場①:乳児院 4 子どもの育ちを支えるために必要なこと①:乳児院の現場から 5 子どもの育ちを支える現場②:児童養護施設 6 産学連携週 7 子どもの育ちを支えるために必要なこと②:児童養護施設の現場から 8 子どもの育ちを支える現場③:母子生活支援施設 9 子どもの育ちを支えるために必要なこと③:母子生活支援施設の現場から 10 子どもの育ちを支える現場④:障害児入所施設 11 子どもの育ちを支える現場⑤:障害児通所施設 12 産学連携週 13 生涯にわたる支援の現場:障害者入所施設/通所施設 14 「理解と援助」のために:障害者支援施設の現場から 15 学期末試験 			
必須テキスト	『ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック2023』全国保育士養成協議会(監修)、宮島清・山縣文治(編集)、中央法			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	臨床心理学が専門。数年間、教育相談室で子どもや保護者の発達相談等に応じていた。現在も臨床心理士、公認心理師として活動中。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2023年度 講義要綱

科 目	子どもの保健 必修 講義		講 師	尾近 千鶴
授業概要	1. 子どもの発達・成長の特性と、心と身体の健康を維持し、増進する働きかけについて学ぶ。 2. 先天的な条件や養育、環境の影響を受けやすい面を考慮し、その子なりに健やかに育ち、自立した生活が送れるように、周囲の大人や社会の適切な対応について理解を深める。			
授業目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解できる。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる。			
到達目標1	総合的に保育することを理解し、子どもの発達を踏まえた乳幼児の保健の内容について、具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	小テスト2回(20点)＋課題レポート2回(20点)＋日常点・授業への取り組み(10点) ＝合計(50点) 意欲的、積極的な取り組みを評価する。	
到達目標2	具体的な保育における保健場面を想定し、環境の構成、保育士の配慮事項を含む、保健的な対応を組み立てることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	小テスト2回(20点)＋課題レポート2回(20点)＋日常点・授業への取り組み(10点) ＝合計(50点) 意欲的、積極的な取り組みを評価する。	
授業方法	対面授業と遠隔授業。Teamsの機能を活かした資料の配布と課題提出の推進を図る。 自分の考えを発表する機会を設定する。 様々な形式で演習問題に取り組み、知識の定着と臨床で活かせる知恵を身につける。			
授業計画	1 ガイダンス 授業の進め方 子どもの健康と保健とは 保健活動の意義と目的 2 子どもの出生と母子保健の意義 3 現代社会における子どもの健康に関する課題 出生・死亡 発育の変化 4 子どもの疾病の予防と適切な対応 免疫機能 5 子どもの疾病の予防と適切な対応 感染症 6 産学連携 7 子どもの身体発育と運動機能の発達 標準と評価の仕方 8 子どもの生理機能の発達 9 子どもの心身の健康状態とその把握 体調不良時の対応 10 アレルギー疾患の特徴と適切な対応 11 新生児の病気、先天性疾患の特徴と対応 12 産学連携 13 慢性疾患の特徴と適切な対応 14 地域における保健活動と子どもの虐待防止 15 保護者との情報共有 子どもの健康診断と関連機関との連携 ※内容、回は授業の進行等により変更することがある。			
必須テキスト	「授業で現場で役に立つ！ 子どもの保健 テキスト」小林美由紀編著 診断と治療社			
参考文献	授業中に紹介する。			
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。国内外での教育機関などでの勤務。 子ども学分野を研究。文学博士。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	15 %
	社会人としての基本	15 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	25 %

2023年度 講義要綱

科目	子どもの食と栄養 必修 講義		講師	高尾 優
授業概要	栄養に関する基礎知識を身につけ、子どもの発育・発達に必要な栄養、および成人の栄養について学び、自身の食生活についても考える力を養う。 また、保育の現場で重要な食育について学ぶ。児童福祉施設や家庭での食と栄養、食の安全、疾患のときの食と栄養、肥満ややせの子どもの食と栄養、障がいのある子どもの食と栄養についても学習する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「保育所における食事の提供ガイドライン」(平成24年3月、厚生労働省)等			
到達目標1	子どもたちをとりまく環境について考え、子どもの食生活の現状と課題について理解できる。 栄養の基礎的な知識を身に付け、保育所における食育に関する指針を理解し、食育を実践できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席および授業の取り組み・課題(20点)受講態度、課題の提出状況などを評価します。 前回の授業内容に関する小テスト(30点):対面授業では小テストを行います。 定期テスト(50点)	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	講義および演習を行う。授業内容の復習のための小テストを実施する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの健康と食生活の意義(子どもを取り巻く環境、子どもの食生活の現状と課題) 2 栄養に関する基本的知識① 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 3 栄養に関する基本的知識② 消化と吸収、栄養素の代謝 4 栄養に関する基本的知識③ 栄養バランスのとれた食事、調理の基本 5 発育・発達と食生活① 小児期の発育と発達、妊娠・授乳期の栄養 6 産学連携 7 発育・発達と食生活② 乳児期の栄養(乳汁栄養・離乳栄養) 8 発育・発達と食生活③ 幼児期・学童期の食生活、生涯発達と食生活 9 食育の基本 10 児童福祉施設や家庭における食事と栄養 11 食の安全(食中毒) 12 産学連携 13 特別な配慮を要する子どもの食と栄養① 体調不良および疾病の子どもへの対応 14 特別な配慮を要する子どもの食と栄養② 食物アレルギーのある子ども、障がいのある子どもへの対応 15 定期試験 			
必須テキスト	今津屋直子・久藤麻子編著 新・子どもの食と栄養 教育情報出版 2022			
参考文献				
担当教員の専門分野等	小児栄養学(食育、食物アレルギー)			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

2023年度 講義要綱

科目	保育の計画と評価 必修 講義	講師	村山 久美	
授業概要	保育における計画の意義・目的を学ぶ 子ども理解を基に保育過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)を学ぶ 指導計画を作成する			
授業目標	1. 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 2. 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 3. 子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え、理解する。			
到達目標1	・保育における計画の意義を理解し、説明することができる ・子ども理解に基づく保育過程を理解し、指導計画を作成することができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(40%)＋授業内での課題(20%)＋定期試験(40%)で評価します。	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	講義形式、指導計画の作成・発表、グループワーク			
授業計画	1 保育の目標と計画の考え方 2 保育におけるカリキュラムとは 3 子ども理解に基づくPDCAサイクルの循環 4 全体的な計画とは 5 長期的な指導計画の作成(0・1・2歳児) 6 産学連携 7 長期的な指導計画の作成(3歳以上児) 8 短期的な指導計画の作成(0・1・2歳児) 9 短期的な指導計画の作成(3歳以上児) 10 指導計画作成の留意事項① 11 指導計画作成の留意事項② 12 産学連携 13 指導計画に基づく保育の展開 14 保育の記録と省察、評価と改善 15 試験 「部分実習指導計画の作成」			
必須テキスト	『保育の計画と評価演習ブック』ミネルヴァ書房			
参考文献	保育所保育指針			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。保育所園長歴10年。「言葉」「子育て支援」「実習指導」を専門に研究。研究実績あり。『子どもの理解と援助』一藝社、第3章執筆。『子どもの文化』共感共鳴共有すること、執筆。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	40% %

2023年度 講義要綱

科 目	保育内容総論 必修 講義	講 師	戸田 真	
授業概要	この科目では、保育内容を総合的に捉える視点を養い、実際の保育現場の事例を通して保育内容について理解を深めます。授業を通して様々な保育知識に触れ、自分の保育感の基礎を考えていきます。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な保育者像、環境、考え方と出会うことによって、自分なりの保育者像、環境イメージを持つ。 2. 共同作業の経験を重ねることによって、人と協力的な関係を気づく力を養う。 3. 子どもの発達や実態を知り、それらに応じた具体的な保育の展開を知る。 			
到達目標1	子ども発達や実態を知り、それらに応じた具体的な保育の展開を知ることで自分なりの保育士像を持つことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	レポート→25点 テスト→25点	
到達目標2	ディスカッション等の経験を重ねることによって他者との関わる力を身に着けることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論貢献→25点 意欲態度→25点	
授業方法	講義・ディスカッション・個人ワーク・グループワーク			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育のイメージ 保育園における養護と教育とは何か考える 2 環境について 人的環境・物的環境を考える 3 子どもの道徳理解について考える 4 子どもの自制心について考える 5 (オンライン)保育園における伝統行事とは 6 産学連携 7 保育園の保護者支援とは 8 命について 9 友達同士の関わりで学ぶものは 10 保育の中の選択とは 11 (オンライン)保育に影響を与えた偉人達 12 産学連携 13 子どもの権利条約を考える 14 自分の保育感を考える 15 試験 			
必須テキスト				
参考文献				
担当教員の専門分野等	幼稚園9年、保育園7年勤務 現在主任として勤務、第三者評価員として評価機関に所属。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	40 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %

2024年度 講義要綱

科目	保育内容演習・健康		必修 講義	講師	真砂 雄一
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「健康」に関する「ねらい」と「内容」を理解し、乳幼児の発達段階を踏まえた保育者の関りや役割について学ぶ。 ・乳幼児を取り巻く健康についての現状を知る。 ・子ども達に必要な運動遊びについて知る。 				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものとの関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えたとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。 				
到達目標1	幼稚園教育要領・保育所保育指針等における領域「健康」の「ねらい」「内容」について理解したことを説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(10点)、小レポート(10%)、レポート試験(30%)		
到達目標2	基本的な生活習慣とその獲得、子どもを取り巻く健康についての現状と安全、子どもの発達を促す運動遊びについて理解したことを説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(10点)、小レポート(10%)、レポート試験(30%)		
授業方法	授業は、オンラインで行う講義と対面での講義のアクティブラーニング・スタイルで行う。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、健康とは何か① 健康で安全な生活とは 2 健康とは何か② 乳幼児期にふさわしい生活とは何か 3 健康とは何か③ 体をよく動かす子どもを育てるために 4 子どもの遊び体験① 5 子どもの身体の発育・発達 形態的発育／生理的機能の発達 6 乳幼児期の運動 7 乳幼児期の安全教育とけがの予防 8 体調不良や傷害が発生した場合の対応 9 子どもの遊び体験② 10 乳幼児期の生活習慣の形成 11 保育における保健計画：保健だよりの作成(オンライン) 12 災害の備え 13 領域「健康」をめぐる現代的問題 14 領域「健康」の理解と指導法 15 子どもの健康まとめ、レポート試験 				
必須テキスト	特になし(授業中に配布、オンライン上に資料を掲示)				
参考文献	『平成29年告示：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(チャイルド社)				
担当教員の専門分野等	<p>「実務経験のある教員による授業」に該当。現在短大にて、幼児体育や健康を担当する准教授として勤務。 小学校で体育テクニカルアドバイザーの経験あり。保育園にて運動指導アドバイザー。 専門分野：幼児体育、身体表現、健康科学</p>				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科目	保育内容演習・人間関係	必修 講義	講師	小林 桂子
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期にみられる人間関係において、多方面からの支援と自立への導きについて。 ・保育を取り巻く人間関係について、実践を踏まえ、理解を深める。 ・すぐに使えるように！人間関係に関わる手遊び、ゲーム等の技術の習得。 			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。 			
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人間関係で、「この問題から何を学ぶことができるのか(どのような生きる力を身につけられるのか)」という視点で考えられるようになる。 ・保育事例から子どもや保護者との関わり方や取り巻く環境を考える 	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み(20%) ・課題の提出(30%) 	
到達目標2	<ul style="list-style-type: none"> ・「気づく力」「考える力」を事例や授業から身につける。 ・人間関係を築いていく上で「心の自立」「人と関わる力」がなぜ大切なのかを理解し、そのための支援の方法を考え、説明できる。 	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	<ul style="list-style-type: none"> ・課題で自分なりの気づきや考えを記入(30%) ・筆記試験(20%) 	
授業方法	<p>事例等をもとに、自分なりの考えをまとめる。ロールプレイや人形劇、絵本やゲームを取り入れ技術を習得する。 必要に応じて小テスト。 毎回、チームで記述の振り返り課題が出ます。 (対面授業に合わせて授業計画の順番が入れ替わることがあります)</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業内容についての説明。 5領域「人間関係」そして、保育や支援に興味関心を持てるような導入となる授業。 2 子どもや保護者と向き合うために自分を知るということの大切さを学びます。 アンケートで自分の思考のくせに気付いてみましょう。 また、保育にどのように活かせるかを考えましょう。 3 信用の関係と信頼の関係の違いを知り、保育で、何が大切な関係なのかを考えます。 「〇〇するなら、〇〇していいですよ」 「〇〇したから、〇〇してはいけません！」 交換条件は信用？信頼？どちらの関係でしょう？ では、保育ではどのような言葉がけが大切なのかを考えましょう。 4 「ほめられるからやる」は本当の目的ですか？「叱られるからやらない」は子どもの心に届いていますか？どのような対応ができるのか考えましょう。 5 相手が「ごめんね」と言ったら、どんなに傷ついても、辛くても「いいよ」って言わなければならないの？自分や相手の気持ちに合った対応を考えます。 6 「いじわる」には成長への大切なものが隠されています。子どもと一緒に考え、乗り越えるには、、、？「いじわる」が目の前で起きた時に、どのような対応が大切なのかを考えましょう。 7 保護者との人間関係も大切です。クレームや相談の電話も、保護者と子どもと一緒に乗り越える大切なきっかけになります。保護者が勘違いしやすい子どもの人間関係の悩みを、事例をもとに考えていきます。悩んでいる保護者にどのような対応ができるか考えましょう。 8 保育者にとって「いい子」？保護者にとって「いい子」？危険ないい子が陥りがちな人間関係の盲点。事例をもとに、「大切なことは相手にとっていい子であることなのか？」を考えてみましょう。 9 「ヒーローごっこ(たたかいごっこ)」を事例に授業をします。「お友達の気持ちになって考えてごらん。」この言葉は子どもの心に伝わるでしょうか？トラブルは、人間関係を学べる宝の山です。何が子どもの生きる力になるのか、対応方法を考えましょう。 10 実話の絵本をもとにした授業です。「子どもは(あなたは)～べき」という押しつけよりも大切なことは何か。「べき」は「〇〇〇」に変化すると、素晴らしい主体性を生み出します。どのような言葉がけが保育に活かせるのかを考えましょう。 11 ボードゲーム(アナログゲーム)は保育や療育、支援の現場で大きな効果をもたらしています。どのようなことなのか、事例をもとにゲームの楽しさや有効性を知り、どのように保育に活用できるのか、考えましょう。 12 その関わりは本当に子どもを尊重していますか？事例や講師の失敗談から、尊重し合う人間関係を考えましょう。 13 子どもはひとりひとり違う人間です。成長に必要なものは全く同じではありません。それぞれのペースで人間関係を築いていきます。受容されて来なかった場合、心が荒れてしまう子どももいます。保育者はどのように向き合っていくのかを考えましょう。 			

	14 集団あそびは、子どもたちが人と関わることの楽しさを知る貴重な経験になります。「究極のイスとりゲーム」で楽しくてあたたかい人間関係を体験してみましょう！試験対策もします。			
	15 考えて答える、記述式となります。教科書、ノート、プリント等、持ち込み可です。 ※スマホを含む電気機器は持ち込み不可です。			
必須テキスト	【新版】保育内容「人間関係」 神蔵幸子・桃枝智子著 大学図書出版			
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにて配布します。			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。 幼稚園、保育、児童センター(大型児童館)、学童クラブ等、保育の現場に30年以上携わっています。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	30 %	専門的知識・技術	20 %

2024年度 講義要綱

科目	保育内容演習・環境 必修 講義		講師	村山 久美
授業概要	乳幼児を取り巻く環境(自然・モノ・事象・文字、記号・地域・文化)に着目し、これらが子どもの発達に重要な役割を果たすことを理解する。			
授業目標	1. 子どもを取り巻く環境を理解する。 2. 乳幼児の発達に応じた「環境」のねらい及び内容を理解する。 3. 環境構成や保育実践の展開を理解する。			
到達目標1	領域「環境」のねらい、内容を理解し、説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点) 講義内容に関する筆記課題(30点)	
到達目標2	保育に関する環境への関心を深め、子どもの発達に即した保育実践を考えることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(20点) 発表、レポート(30点)	
授業方法	講義(ICTの活用、協働学習を含む)			
授業計画	1 オリエンテーション(講義の概要とねらい) 2 子どもを取り巻く環境 3 身近な環境との関わり、感性の育ち 4 モノともかかわりを通して生まれる育ち(学び) 5 自然ともかかわりを通して生まれる育ち(学び) 6 社会ともかかわりを通して生まれる育ち(学び) 7 領域「環境」のねらい及び内容 8 乳児保育における環境ともかかわり 9 モノともかかわりを支える保育の展開 10 自然ともかかわりを支える保育の展開 11 社会ともかかわりを支える保育の展開 12 領域「環境」と小学校教育のつながり 13 現代的課題と保育 14 子ども・保育者・保護者の育ちあい、まとめ 15 試験			
必須テキスト	ミネルヴァ書房『保育内容「環境」』			
参考文献	保育所保育指針			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。保育所園長歴10年。「言葉」「子育て支援」「実習指導」を専門に研究。研究実績あり。『子どもの理解と援助』一藝社、第3章執筆。『子どもの文化』共感共鳴共有すること、『神奈川県保育士実技講習会 言語表現』テキスト執筆。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

2024年度 講義要綱

科目	保育内容演習・言葉		必修 講義	講師	佐藤 博美、吉田 裕子
授業概要	吉田先生記入 認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当9コマ)				
授業目標	<p>1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。</p> <p>・乳幼児を対象とした絵本の特色を理解する。乳幼児が絵本に触れる為の具体的な取り組みについて理解する。・保育、教育の現場における絵本の意義について理解する。(認定:「絵本と出会う①」「絵本と出会う②」佐藤博美・佐藤めぐみ・遠藤祐太郎・竹島孝昭・松森照幸)・子どもの興味について理解する。絵本以外のメディアを知る。(認定:「子どもの心をとらえるもの」細江幸世)・場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークについて理解する。場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークの技術を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術①」千葉幸・絵本を活用した表現活動について理解する。絵本を活用した表現活動の基礎的技術を体得する(認定:「絵本の世界を広げる技術①」江花志乃)・「おはなし会」について理解する。「おはなし会」のプログラム作成及び運営にかかわる手法を体得する。(認定:「おはなし会の手法①」近藤千春)・「おはなし会」のテクニックについて理解する。「おはなし会」のテクニックを体得する。(認定:「おはなし会の手法②」高田ちとせ)・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係わる情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術③」井上まどか)・各年齢期の子どもの発達と絵本の関わりの特性について理解する。(認定:「絵本各論③」佐藤博美・佐藤めぐみ・遠藤祐太郎)</p>				
到達目標1	認定絵本士養成講座科目を学び絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点		
到達目標2	[吉田先生]発達を理解し、それに合わせた言葉がけや遊びを習得する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	[吉田先生]出席12点、態度20点、テスト18点(合計50点)		
授業方法					
授業計画	<p>1 4/9(火)3限【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う①」担当:佐藤博美</p> <p>2 4/16【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う②」担当:佐藤博美</p> <p>3 4/23【認定絵本士養成講座科目】「子どもの心をとらえるもの」担当:細江幸世</p> <p>4 5/14 吉田先生①オリエンテーション 0歳児の言葉の発達と愛着形成</p> <p>5 5/21 吉田先生②1.2歳児の言葉の発達、わらべうた</p> <p>6 5/28【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術①」担当:千葉幸 課題提出</p> <p>7 6/4【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術①」担当:江花志乃</p> <p>8 6/11 吉田先生③3.4歳児の言葉の発達、伝わる言葉1</p> <p>9 6/14(金)1限【認定絵本士養成講座科目】「おはなし会の手法①」担当:近藤千春 課題提出</p> <p>10 6/18 吉田先生④5.6歳児の言葉の発達、伝わる言葉2</p> <p>11 6/25 吉田先生⑤まとめと言葉遊び実践</p> <p>12 7/2 吉田先生⑥まとめ補足とテスト</p> <p>13 7/9【認定絵本士養成講座科目】「おはなし会の手法②」担当:高田ちとせ 課題提出</p> <p>14 7/23【認定絵本士養成講座科目】「絵本各論③」担当:佐藤博美</p> <p>15 7/31(水)3限【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術③」担当:井上まどか</p>				
必須テキスト	【認定絵本士養成講座科目】 認定絵本士養成講座テキスト				
参考文献					

<p>担当教員の 専門分野等</p>	<p>吉田裕子 ○佐藤めぐみ・佐藤博美・遠藤祐太郎・竹島孝昭・松森照幸:赤ちゃん絵本、ブックスタートなど地域での育児支援活動や家庭での絵本の読み聞かせの現状に精通した者・保育・幼児教育現場及び学校現場における子どもと絵本の関りの現状に精通した者・子どもの知的、社会的発達と絵本の関りに関する専門的知識を有する者 ○細江幸世:絵本作家、子ども向け番組作成従事者、児童文化に精通した者○千葉幸:図書館や学校などにおいてブックトーク及びビブリオトークの実践経験をもつ者 ○江花志乃:絵本検索に係るIT技術及び図書館レファレンスサービスの双方について専門的知識を有する者○近藤千春:絵本に関する「お話会の実践経験」を10年以上持つ者 ○高田ちとせ:絵本に関する「お話会の実践経験」を10年以上持つ者 ○井上まどか:あらゆる分野の絵本について精通しており、図書館または書店等において絵本の提案を行っている実践経験を持つ者</p>			
<p>この授業で 身につく 「6つの力」</p>	<p>職業に対する理解</p>	<p>20 %</p>	<p>社会の動きに関心をもち 学び続ける力</p>	<p>10 %</p>
	<p>社会人としての基本</p>	<p>10 %</p>	<p>主体性 素直 思いやり</p>	<p>10 %</p>
	<p>他者と関わる力</p>	<p>20 %</p>	<p>専門的知識・技術</p>	<p>30 %</p>

2024年度 講義要綱

科目	保育内容演習・表現		必修 講義	講師	竹田 えり
授業概要	手遊び・歌遊び・リズム遊びなどを通じて子どもの表現の育ちと保育者の役割について学ぶ。様々な応用を考え、表現の幅を広げていく。劇遊び、エプロンシアター、パネルシアターなどの演技バリエーションも学ぶ				
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と、5つの領域を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場면을想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。				
到達目標1	教育実習・就業先等で即実践できる歌遊びのレパトリーを広げ、現場で幅広く対応できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	到達目標1に対する評価(方法及び配点) ◆教科書やネットなどで新しく知り得た遊びを10作品以上、レパトリーとして習得すること。 自分で作る、創作あそびも歓迎します。 授業への取り組み+授業時間内での課題提出(45点)+オリジナルの遊び創作(5点)=合計(50点) 意欲的、積極的な取り組みを評価し、期待します。		
到達目標2	具体的な保育場면을想定し、常に元気な明るい表情と声で子どもと向き合うことができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	到達目標2に対する評価(方法及び配点) ◆どんな場面でも積極的に明るく笑顔で人前に立てるように意識していく。 実技試験(30点) ◆毎回の授業での個人もしくはグループでの創意工夫のある発表(20点) 計50点 到達目標1+2 合計 100点		
授業方法	実践の繰り返しを重視。教科書や参考文献などの歌遊び・劇遊び・パネルシアター等を学び表現力をつける				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持物等の説明) 2 2回目より、3～13回の項目について、【順不同】で複合的に盛り込み進めていく。 3 色々な手遊び・歌遊び リズム遊び 春 4 色々な手遊び・歌遊び リズム遊び 夏 5 色々な手遊び・歌遊び リズム遊び 秋 6 色々な手遊び・歌遊び リズム遊び 冬 7 わらべうた・手話ソング 8 タオルあそび 9 読み聞かせ 表現方法 朗読のバリエーション 10 エプロンシアター・てぶくろシアター 11 パネルシアター ブラックパネルなどのバリエーション 12 劇遊び・オペレッタ 表現指導方法 13 劇遊び・オペレッタ(衣装作り・実演) 14 実技試験 15 総括 振り返り 卒業ソングなど				
必須テキスト	「あつまれハート」メイト社				
参考文献	CD「ハートキラキラ」「ハートハッピー」「ふれあいタオルあそび」全て図書室にあります。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当 長年に渡り保育士向けのセミナーや研修会で講習指導。手遊び・歌遊び・劇遊び分野を研究。オペレッタ「いつまでもとだち」「北風と太陽」他多数出版(メイト社)				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	

2023年度 講義要綱

科目	保育内容の理解と方法・身体表現遊び I		必修 講義	講師	真砂 雄一
授業概要	子ども達に運動遊びの楽しさを教えるためにも、まずは学生自身が運動遊びを体験する。 そして、子どもたちの表現と運動に関する知識を身に付ける。 環境構成について考え、展開するための技術を学ぶ。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	子どもの運動、表現遊びについての基礎知識を説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、講義内容に関するレポート(30点)		
到達目標2	子どもの発育発達に沿った運動遊びについて理解し、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループワークでの貢献度(10点)、実践発表(30点)		
授業方法	保育現場でどのような運動遊びが求められているか、実践を通し考えを深めていく。 運動遊びの援助・指導・安全管理等、環境構成、計画立案等、様々な形の学習を体験する。 対面授業は1回目からすべて7階 A71教室にて行う。 *社会情勢や進行状況に合わせて内容や順番を適宜変更する。				
授業計画	1 ガイダンス・からだほぐし 2 身体表現 3 ボール遊び① 4 リズム遊び・鬼ごっこ 5 幼児期に必要な運動とは①(オンライン) 6 産学連携 7 ボール遊び② 8 運動遊び実践の計画立案作成/グループ決め 9 運動遊び実践① 10 運動遊び実践② 11 幼児期に必要な運動とは②(オンライン) 12 産学連携 13 運動遊び実践③ 14 運動遊び実践④ 15 身体表現遊びのまとめ、振り返り				
必須テキスト	特に必要なし				
参考文献	授業中に紹介する				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。現在短大にて、幼児体育や健康を担当する准教授として勤務。小学校で体育テクニカルアドバイザーの経験あり。保育園にて運動指導アドバイザー。専門分野:幼児体育、身体表現、健康科学				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	30% %	

2023年度 講義要綱

科目	保育内容の理解と方法・音楽遊び I		必修 講義	講師	楠野 麻衣、島内 亜津子、杉橋 祥子、藤村 秀子
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。 ※個人レッスンの待機時間も含め、電子ピアノで自主練習をおこなう際、感染予防のため必ずイヤホンまたはヘッドフォンを持参してください。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	・教科書に沿って鍵盤楽器(ピアノ等)の基礎を学びつつ自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨むことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(50点)、実技試験発表(50点)		
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(50点)、実技試験発表(50点)		
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。				
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A) (B)2グループに分かれて45分で入れ替わる) 2 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。) 4 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法) 5 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。 6 産学連携 7 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)わらべ歌・手遊び歌の演習 8 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 9 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)リズムを含む歌遊びの演習 11 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。 12 産学連携 13 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A) (B)共 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A)(B)共				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱい』教育芸術社				
参考文献	随時講師が準備する。				
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リズム指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	40% %	

2023年度 講義要綱

科目	保育内容の理解と方法・造形遊び I		必修 講義	講師	高木 秀文
授業概要	親しみのある画材や身の回りにある素材を使って表現活動する「造形」を子どもと一緒にあそぶように保育者自身も楽しめるための知識と技能を身につける。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	子どもの造形活動を深く理解して寄り添い、指導と同時に支援する行動を自ら取ることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	製作課題への積極的な取り組み(30%)+特定課題(事前告知)の仕上がり(20%)+見直しテスト課題(50%)=合計(100%) 意欲的な取り組みを評価します。		
到達目標2	季節や行事に沿った造形遊びのアイデア、引き出しを増やして子どもに向けた幅広い造形活動ができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	製作課題への積極的な取り組み(30%)+特定課題(事前告知)の仕上がり(20%)+見直しテスト課題(50%)=合計(100%) 意欲的な取り組みを評価します。		
授業方法	幼児期の絵画表現を擬似的に再現して造形活動への理解と興味を深める。 身近な素材を使った製作物を作り、成果を共有する。				
授業計画	1 授業内容、教材、用具、評価の説明。 児童画を鑑賞して気づいた点をコメントして共有します。 貼り絵の製作課題の準備として身の回りの用紙集めの説明。 2 なぐり描き期の説明と作例の共有をします。 関連演習一背面向きで顔を描く。 3 象徴期の説明と作例の共有をします。 関連演習一身の回りの顔さがし。 4 図式期の説明と作例の共有をします。 関連演習一絵描き歌を考える。 5 身の回りで集めた用紙、色紙を用いて貼り絵のお弁当を作ります。 6 産学連携 7 貼り絵のお弁当を入れるリュックサックを色画用紙で製作します。 8 粘土玉作り、ペットボトルへ貼り付け、色粘土作り。 9 6月にまつわる風物や行事から題材を取った絵とお話作り。 10 紙粘土1で作った粘土玉で頭足人を製作、他製作物の共有します。 11 折り方と切り方を変えながら各種花びらを製作します。 12 産学連携 13 すり合わせ版画の製作と見立てた結果を共有します。 14 キッチンペーパーを使った揉み紙と紙染めをします。 15 油性クレヨンと水彩絵具ではじき効果を共有します。				
必須テキスト	特になし。				
参考文献	授業内で適宜紹介します。				
担当教員の専門分野等	絵画(日本画)制作。文化財修復技師。幼稚園の課外造形授業、美術研究所の児童画教室の勤務歴あり。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	15% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	15% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	20% %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・言葉遊び I 必修 講義	講 師	なかむらしんいちろう、 乙川 智子
授業概要	[乙川]手話を学ぶことにより表情やコミュニケーション能力を高め、聴覚障害者・児に対する接し方を学ぶ。(該当科目3コマ) 【認定絵本士養成講座科目】を学び、絵本への理解を深める。(該当科目11コマ) 【課題作成】(該当科目1コマ)		
授業目標	<p>1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。</p> <p>2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。</p> <p>【認定絵本士養成講座科目】 「認定絵本士養成講座科目」を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「絵本」をめぐる行為について理解する、「絵本」の定義の捉え方について理解する、「絵本」の多面性を理解するとともに、その可能性や課題を理解する(認定:「絵本総論」課題 中村真一郎) ・世界の絵本の歴史について理解する、日本の絵本の歴史について理解する、絵本賞について理解する(認定:「絵本各論①」課題 中村真一郎・田部井佳代) ・絵本の視覚表現特性について理解する、絵本の言語表現特性について理解する(認定:「絵本各論②」課題 中村真一郎・いのうちひろ・山田花菜) <p>以下、文字数に制限があり未記入。</p>		
到達目標1	言葉(手話や絵本)に関する知識や技術を習得し実践できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み方や授業中の意欲的な学ぶ姿勢、課題提出など=合計(50点)
到達目標2	【認定絵本士養成講座科目】認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への熱心な取り組み。課題のある場合は期日までに提出。50点【「絵本総論」「絵本各論①」「絵本各論②」「絵本各論④」「絵本が生まれる現場①」】は課題の提出必須。出席+課題提出で、【認定絵本士養成講座科目】に出席となります。
授業方法	講義・実技		
授業計画	<p>1 4/12(金)2限 絵本総論(絵本とは何か) 課題あり 担当:中村</p> <p>2 4/19 絵本各論②(視覚表現、言語表現から見た絵本) 課題あり 担当:山田花菜</p> <p>3 4/26 絵本が生まれる現場② 担当:横山雅代</p> <p>4 5/10(金)1限 [乙川]聴覚障害について(理論)、自己紹介(名前、趣味等)の表現練習</p> <p>5 5/10(金)2限 [乙川]聴覚障害について(理論)、自己紹介(名前、趣味等)の表現練習</p> <p>6 5/24[乙川]保育園またはアルバイト先で使用する会話練習、まとめ</p> <p>7 5/31 さまざまなジャンルの絵本①(物語の絵本) 担当:山田花菜</p> <p>8 6/7 絵本各論④(メディアとしての絵本の位置づけ) 課題あり 担当:手塚けんじ</p> <p>9 6/14 さまざまなジャンルの絵本③(科学絵本) 担当:手塚けんじ</p> <p>10 6/21 絵本のもつ力(様々な角度から絵本を見る) 担当:山田花菜</p> <p>11 6/28 オンライン 課題作成 担当:中村</p> <p>12 7/5 絵本が生まれる現場①(作家の感性に触れる) 課題あり 担当:山田花菜</p> <p>13 7/12 心に寄り添う絵本 担当:細江幸世</p> <p>14 7/19 絵本各論①(絵本の歴史、絵本賞について) 課題あり 担当:中村</p> <p>15 7/26 さまざまなジャンルの絵本②(昔話童話の絵本) 担当:中村</p>		
必須テキスト	乙川:特に指定なし【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト		
参考文献	乙川:適宜プリントを使用する。【認定絵本士科目】適宜紹介する。		

<p>担当教員の 専門分野等</p>	<p>【乙川】「実務経験のある教員による授業」30年以上にわたり手話指導並びに手話通訳活動中【認定絵本士養成講座担当講師】 ○中村:絵本をめぐる活動に精通した者／絵本の歴史や絵本賞に関する専門的知識を有する者／絵本の視覚表現・言語表現に関する専門的知識を有する者／絵本作家、童話と作家して豊富な経験を持つ者／物語を内容とした絵本に関する専門的知識を有する者／昔話・童話を題材にした絵本に関する専門的知識を有する者 ○いのうちひろ・山田花菜:絵本の視覚表現・言語表現に関する専門的知識を有する者／絵本作家、童話作家として豊富な経験を持つ者／物語を内容とした絵本に関する専門的知識を有する者／絵本作家、絵本の研究者、絵本をめぐる活動全般に精通した者 ○手塚:情報メディアとしての絵本の特性および我が国著作権制度と絵本の関わり、電子書籍と脳科学に関する専門的知識を有する者など ○千葉:科学絵本などに関する専門的な知識を有する者など ○田部井:絵本の歴史や絵本賞に関する専門的知識を有する者／昔話・童話を題材にした絵本に関する専門的知識を有する者 ○横山雅代:絵本・紙しばい、児童文学の編集業、以下、文字数に制限があり未記入。</p>			
<p>この授業で 身につく 「6つの力」</p>	<p>職業に対する理解</p>	<p>0 %</p>	<p>社会の動きに関心を持ち 学び続ける力</p>	<p>0 %</p>
	<p>社会人としての基本</p>	<p>0 %</p>	<p>主体性 素直 思いやり</p>	<p>0 %</p>
	<p>他者と関わる力</p>	<p>0 %</p>	<p>専門的知識・技術</p>	<p>100 %</p>

2023年度 講義要綱

科 目	乳児保育 I	必修 講義	講 師	星野 優芽
授業概要	3歳未満児の保育について学びます。乳児保育 I では、乳児保育の意義や目的、乳児保育の現状や課題、また3歳未満児の発達を踏まえた保育内容について学んでいきます。			
授業目標	1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。			
到達目標1	1. 乳児保育の意義・目的を説明できるようになる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	最終回に実施予定のテストで評価する(30点)	
到達目標2	2. 乳児保育における「愛着」や「安全基地」について自分の言葉で説明できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	(1)最終回に実施予定のテスト、自分の言葉で「愛着」や「安全基地」とは何かを説明する。(30点) (2)授業内のワークシートやグループワークで、「愛着」が形成されていることの意味や「安全基地」の役割を考え、自分の言葉で伝えたり、表現することができる。(40点)	
授業方法	・講義やグループワーク 保育者には他者とのコミュニケーションや自分の考えを表現する力が大切です。 ・テストあり			
授業計画	1 この授業の内容や方法について説明します。その上で、時間があれば、乳児保育についてのイメージを聞かせていただければと思います。 2 乳児保育とはそもそも何か、またその社会的意義について学びます。 3 保育所保育指針における乳児保育の理念と、児童福祉施設の設備運営に関する基準について学びます。その上で、乳児保育が行われているさまざまな場所についても知っていきましょう。 4 子どもが育つことの基盤になる「愛着」について学びます。子どもは愛着対象である大人を安全基地にして遊びや環境に向かいます。それによって、子どもは好奇心や探究心をもって、外の世界に自ら働きかけることが出来るようになります。 5 乳児保育で大切な「3つの視点」と、1歳以上3歳未満、3歳以上の保育で大切な「5領域」について、それらがなぜ必要なのか、また「3つの視点」と「5領域」のつながりについて学びます。 6 できれば乳児保育(0歳児、1歳児、2歳児クラス)で子どもがどんな遊びをしていたか、どんな様子だったか、について観察してきてもらえたらと思います。 7 0～3歳を見通したときどんな流れで子どもが発達して(育って)いくのか、おおまかにさらってみましょう。 8 保育所保育指針第2章には、保育における「ねらい」と「内容」が書かれ、その上で「保育の実施に関わる配慮事項」という項目が設けられています。そこに書かれた内容について詳しく学んでいきましょう。 9 保育所や認定こども園の乳児保育では「日課」や「デイリープログラム」と呼ばれる1日の流れがおおまかに決められています。子どもが同じ生活リズムで過ごすことが、心身の安定につながるからです。そうしたデイリープログラムについて、具体的に見ながら、同時に職員の勤務体制についても考えてみましょう。 10 具体的な事例から、職員間の連携について考えてみましょう。同時に担当制についても触れ、そのメリットや気を付けなければならないことについても考えてみましょう。 11 乳児を保育する上では、特にその家庭での過ごし方を知ることが重要です。保育する上で必要な保護者とのコミュニケーションと、その支援について学びます。 12 子どもと保育者が関わる場面から、「愛着」というものを感じたり、年齢が低ながらも夢中で遊ぶ子ども、それを支える保育者のかかわりに注目してみましょう。 13 産学連携での観察内容から、エピソードを書き、また他の学生のものを読んでみましょう。エピソードから、乳児の心の動き、育ちを捉えてみましょう。 14 産学連携での観察内容から、エピソードを書き、また他の学生のものを読んでみましょう。エピソードから、乳児の心の動き、育ちを捉えてみましょう。 15 ・乳児保育の意義・目的を説明する ・乳児保育における「愛着」や「安全基地」とはどういうものか、具体的な例を用いて説明する ※教科書やプリントの持ち込みは不可。自分でまとめたノートなどは持ち込み可とする			

必須テキスト	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 松本峰雄監修 池田りな・才郷眞弓・土屋由・堀科(2019)『乳児保育演習ブック第2版』ミネルヴァ書房			
参考文献	授業中に紹介			
担当教員の専門分野等	保育者の専門性、実践知、0歳児保育について特に関心があります。 保育者は保育中何を考えているのか、何を見ているのか、あるいは、何について把握しておかなければならないのか、何を意識しておかなければならないのか、それが保育の実践における専門性であると考えています。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	20% %

2023年度 講義要綱

科目	乳児保育Ⅱ		必修 1単位 講義	講師	佐藤 めぐみ
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育の基本を知り、乳幼児期の生活と援助の方法を体験する。 ・3歳未満児の発育、発達をふまえた保育を深める。 				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。				
到達目標1	座学で学んだ抱っこ、沐浴、着替え、授乳を適切に行える。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実技への取り組み(40点)		
到達目標2	多岐にわたる乳児保育について知り、毎回自分でリアクションペーパーに課題をまとめることが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	リアクションペーパー(50点)、授業への取り組み(10点)		
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容から自分の考えをリアクションペーパーに記入。 ・抱っこ、沐浴、着替え等の介助を実際に行う体験型学習。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持ち物等の説明) 2 だっこのしかた・おんぶのしかた 3 だっこのしかた・おんぶのしかた【実践】 4 乳児の衣服の基礎、衣服の着せ方・脱がせ方 5 おむつ替えとおむつはずれ 6 産学連携 7 赤ちゃんの着替えとおむつ替え【実践】 8 沐浴の仕方・清拭の仕方 9 沐浴の仕方・清拭の仕方【実践①】 10 沐浴の仕方・清拭の仕方【実践②】 11 乳児保育の安全管理 12 産学連携 13 授乳の仕方と離乳食の基礎知識 14 授乳の仕方【実践】 15 まとめ 				
必須テキスト	「はじめて学ぶ 乳児保育」同文書院				
参考文献	授業中に適宜紹介				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年私立保育園に勤務し、主任として実習指導や職員育成に携わる。専門は「乳児保育」				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	5 %	
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2023年度 講義要綱

科 目	子どもの健康と安全		必修 講義	講 師	竹内 麻貴
授業概要	1. 子どもの健康や安全を守る定義や意義を理解する。 2. 子ども生命維持に必要な知識を学び理解する。 3. 子どもの安全について基礎的な知識を理解し、具体的な対策等を考慮することができる。				
授業目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン(※)や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「2012年改訂版保育所における感染症対策ガイドライン」(平成24年11月、厚生労働省)、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省)等				
到達目標1	1. 「子どもの保健」で学んだ総合的に保育することを踏まえ、子どもの健康保持や安全維持するために必要な知識を理解し、知識を深める。 2. 保育現場や保育活動を行う場面を想定し、具体的な安全対策および救急処置が行える。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	定期試験(80%)＋リアクションペーパー・演習態度(10%)＋提出物(10%)＝合計(100%)を総合して評価します。		
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)			
授業方法	講義、演習、グループワーク等、授業内容にそった授業形式とする。 救急・応急処置法は演習を中心に行う。				
授業計画	1 子どもの健康の維持と健康管理の必要性を考え、理解する。 2 ・子どもが体調不良を起こす原因、発生状況を知る。また予防法も理解する。 ・子どもが体調不良を起こしたときの観察点を学び、理解する。 3 子どもの体調不良時の対応方法を学び、理解する。 4 事例検討①・・・けがや事故が発生しやすい箇所を見つけ、どんなけがが予測できるか、またその予防策を考える。 5 事例検討②・・・けがや事故が発生しやすい箇所を見つけ、どんなけがが予測できるか、またその予防策を考える。 6 産学連携 7 産学連携を通して、気付いた危険を振り返る。 8 実際に起こった犯罪事例を通して、原因や予防法を考え、学ぶ。 保育者としての責任、定義を再確認する。 9 実際に起こった事故・事件の裁判事例を通して、保育態度が招く危険とそれに伴う罰則、裁判を知り、学ぶ。 また保育者としての責任、定義を再確認する。 10 自然災害、天災などの災害と、引き起こる二次災害に備える方法や訓練法を知る。 11 CPR法、AED装着法、窒息時の背部叩打法を学ぶ。 実際に演習を行う。 12 産学連携 13 救急処置法について学び、救急処置法を演習する。 14 子どもの感染症の予防、アレルギー疾患を学び、理解する。 15 総まとめとして定期試験を行う。				
必須テキスト	『新基本保育士シリーズ⑩子どもの健康と安全』松田博雄、中央法規。				
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントや資料を配布				
担当教員の専門分野等	国立行政機構京都医療センターにて看護師勤務。(産婦人科、外科など)。取得資格・・・看護師、介護福祉士、ケアマネージャー、医療的ケア教員資格取得。出産後、小児科クリニック看護師業務と同時に、女性の家事・育児と言う視点で国際女性会議にて講演を行う。母子支援NPOを設立。託児付きクラシックコンサート企画運営、子育て本出版、TV出演等の活動を行う。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	5% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	5% %	専門的知識・技術	50% %	

2024年度 講義要綱

科目	障害児保育		必修 講義	講師	今泉 岳雄
授業概要	障害児保育を支える理念や各障害の特性を理解し、保育現場やその他の場において、障害児やその保護者をどのように支援していったらよいかを学ぶ。				
授業目標	①障害児保育を支える理念を身につける。 ②各障害の特性や支援方法を理解する。 ③障害児やその保護者を援助するための指導計画を作成できる。				
到達目標1	障害児保育を支える理念を身につけ、障害児やその保護者を援助するための指導計画を作成できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内発表10点 (2)レポート40点		
到達目標2	各障害の特性や支援方法を説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内発表10点 (2)レポート40点		
授業方法	講義、映像視聴、グループワーク				
授業計画	1 障害の捉え方と障害児保育の歴史 2 障害児保育の基本 3 発達障害の理解と支援① 4 発達障害児の理解と支援② 5 発達障害児の理解と支援③ 6 障害児を持つ保護者や家族に対する支援 7 知的障害の理解と支援 8 肢体不自由児の理解と支援 9 視覚障害・聴覚障害児の理解と支援 10 その他の特別な配慮を要する子どもや保護者の理解と支援 11 てんかんの理解と支援 12 知的に高い自閉症スペクトラム障害の映像視聴 13 言語障害・病弱・虚弱・食物アレルギーを持つ子どもや保護者の理解と支援 14 障害児保育を支える記録・評価・支援計画 15 障害のある子どもの保育にかかわる 現状と課題				
必須テキスト	「障害児保育・・・子どもとともに成長する保育者を目指して・・・」藤永保監修 阿部五月他著 萌文書林				
参考文献	授業中に適宜紹介、配布。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員の授業」臨床心理学専門。臨床心理士、公認心理師。神奈川県立の児童相談所、児童自立支援施設、日赤医療センター、東北文教大学(教授)などに勤務。「心理学のエッセンス」(日本評論社)、「ハッピー育児セラピー」(学習研究社)、「パパにもわかる子育ての本」(実業之日本社)、他出版。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %	

2023年度 講義要綱

科 目	社会的養護Ⅱ 必修 講義		講 師	北川 裕子
授業概要	施設や保育士の役割や援助等、基礎的な内容について具体的に学ぶ。 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。 			
到達目標1	施設養護及び家庭養護の実際について理解できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(15点)、提出物(35点)	
到達目標2	虐待の防止、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深めることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(15点)、提出物(35点)	
授業方法	事例研究やロールプレイ、児童自立支援計画の立案等を通し、保育現場での実践力を身につけられるような学習を取り入れる。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 養護の基本原則等の復習、子どもの権利擁護 2 保育士の資質と倫理・責務、チームワーク 3 施設養護の生活特性および実際 ①入所、日常生活援助 4 施設養護の生活特性および実際 ②集団生活、家族調整 5 施設養護の生活特性および実際 ③自立支援 6 産学連携 7 施設養護の生活特性および実際 ④退所、アフターケア 8 施設養護の生活特性および実際 ⑤記録の意味、個別支援計画の作成、自己評価 9 保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ①心理的支援 10 保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ②被虐待児への支援、親への支援 11 保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ③障がい児への支援、親への支援 12 産学連携 13 里親等の家庭養護の特性及び実際 14 今後の施設の方向性(小規模化等) 15 今後の社会的養護の方向性(家庭的養護の推進、地域との関わり、展望等) 			
必須テキスト	なし			
参考文献	「児童の福祉を支える 演習 社会的養護Ⅱ」吉田眞理著 萌文書林「図解で学ぶ保育「社会的養護Ⅱ」」原田旬哉他 萌文書林			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。児童養護施設勤務経験あり。 児童家庭福祉・社会的養護分野を研究。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	15% %

2024年度 講義要綱

科目	子育て支援 必修 講義		講師	古川 佳子
授業概要	保育の専門性とは何かを理解し、保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援や、支援機関や支援対象の特性・支援について、具体的に学んでいく。			
授業目標	1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。			
到達目標1	保育士の行う保護者に対する子育て支援の内容や方法、また保護者と関わる時に表出されやすい自分の性格特性について具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内発表10点 (2)レポート40点	
到達目標2	子育て支援の対象となる保護者や子どもの問題に応じた支援方法や子育て支援を行っている機関の種類について具体的に説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内発表10点 (2)レポート40点	
授業方法	講義、ディスカッション、ロールプレイ、映像視聴、事例検討			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育の特性、保育士の業務、保育所における子育て支援、保護者との信頼関係形成のための保育者の態度について学ぶ。 2 エゴグラムを通して自分の特性を理解する。 3 認知行動療法やプロセスレコードの体験を通して自分を知る。 4 保護者や家庭の現状、保護者の状況に配慮した個別の支援、支援のプロセス、エコマップの作成等について学ぶ。 5 コミュニケーションのロールプレイ体験と保護者支援のためのカウンセリングの知識について学ぶ。 6 カウンセリングをロールプレイで体験するとともに、カウンセリング内容を記録する。 7 保護者支援に必要な情報をどのように得て支援に結びつけるかを学ぶ。 8 子育て支援機関にどのようなものがあるか、またその役割や連携について学ぶ。 9 どのような要因が保護者・保育者間のトラブルになるか、その予防や対応について考える。 10 虐待の実態と子どもに及ぼす影響、対応について学ぶ。 11 保護者が発達障害、神経症、うつ病、境界性人格障害、統合失調症を抱えている場合の理解と支援について学ぶ。 12 知的障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害、学習障害に等について理解し、支援について学ぶ。 13 分離不安障害、緘黙、強迫障害、心的外傷後ストレス障害、うつ病、チック、吃音、転換性障害、指しゃぶり等についてその背景と支援について学ぶ。 14 目標の設定、支援内容や方法の計画、支援の実践、記録、評価について学ぶ。 15 今まで学んだ内容のポイントを確認する。 			
必須テキスト	「子育て支援」 公益財団法人児童育成協会監修 西村重稀他編集 中央法規			
参考文献	授業中に適宜紹介、配布			
担当教員の専門分野等	専門教員の専門分野等:「実務経験のある教員の授業」臨床心理学専門。臨床心理士、公認心理師。台東区および東京都の公立学校(スクールカウンセラー)、企業向けカウンセリングサービス提供会社(カウンセラー)、杏林大学(教授)などで勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

2023年度 講義要綱

科 目	保育実習指導 I a		必修 講義	講 師	佐藤 博美
授業概要	実習日誌の記載方法を体得したり、実習に向けて具体的な準備を進め、実技の練習、心構えを養い、保育所実習を有意義なものにするために必要事項を学ぶ。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 				
到達目標1	子どもや保育士に対する理解を深め、現場での実習生としての自分の姿をイメージできる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、保育園見学への参加やそれにまつわる提出物(20点)		
到達目標2	保育所実習に臨む態度や目的意識が持つことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	準備・発表(20点)その他提出物(10点)筆記試験(20点)		
授業方法	講義、発表、グループワークなど				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習の概要 2 .実習の心得 個人票作成 3 保育所の1日の流れと保育内容の理解 実習目標を立てる 4 実習日誌を書く意義と記入の仕方 5 実習日誌:エピソード記録の書き方について 6 産学連携 7 部分実習指導計画について 8 実習に伴う書類作成 事務手続きの確認 実習課題 9 オリエンテーションについて 実習日誌の書き方 10 手遊び・絵本の指導案作成 11 実習日誌:ドキュメンテーション記録について 12 産学連携 13 絵本の読み聞かせの発表・ペーパーサートの発表 14 まとめと振り返り 15 試験 最終確認 				
必須テキスト	「フォトランゲージで学ぶ～子どもの育ちと実習日誌・指導計画～」(萌文書林) 「平成29年告示 保育所保育指針」(チャイルド社)				
参考文献					
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育所での実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	20% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	20% %	

2023年度 講義要綱

科目	保育実習指導 I b		必修 講義	講師	井上 恵理
授業概要	様々な施設の現場に立ち、対象者との関わりを通して学ぶ「施設実習」を行う際に必要となる知識や視点を養い、「施設実習」で得る貴重な経験を、より有意義な学びとできるよう、具体的な準備を進める。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 				
到達目標1	講義内容を理解し、要点をまとめ、自らの考えを文章として記すことができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関するノート提出(60点)		
到達目標2	実習に臨むにあたり、目的意識や自らの課題を具体的に記すことができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、実習目標の作成(20点)		
授業方法	ノート作成を伴う講義受講				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(授業概要・目標・方法・評価・持物等の説明) 2 子どもの育ちの理解①:愛着障害(1) 3 子どもの育ちの理解②:愛着障害(2) 4 関わりの技術①:実際の実習より(ロールプレイ) 5 関わりの技術②:「視点」を養う 6 産学連携週 7 子どもの育ちの理解③:発達障害 8 関わりの技術③:療育場面より 9 施設実習先の発表 10 施設実習への具体的準備①:個人票作成、オリエンテーション準備 11 施設実習への具体的準備②:実習目標の作成(1) 12 産学連携週 13 施設実習への具体的準備③:実習目標の作成(2) 14 実習日誌の理解と練習 15 施設実習への具体的準備:実習前/実習中/実習後にすること 				
必須テキスト	特になし				
参考文献	授業中に適宜紹介する				
担当教員の専門分野等	臨床心理学が専門。数年間、教育相談室で子どもや保護者の発達相談等に応じていた。現在も臨床心理士、公認心理師として活動中。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	25 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	25 %	専門的知識・技術	10 %	

2024年度 講義要綱

科目	保育実践演習 必修 演習		講師	菊池 一英
授業概要	保育に関する興味のある様々なテーマについて、幅広い視野をもって、主体的に関わる姿勢を養う。興味のあるテーマについて調査、分析、考察、発表を行う。テーマ設定について、他者に根拠を明確に示し、伝える能力を身に付ける。また、ディスカッションを通して、他者の意見を取り入れながら問題の解決の糸口を見つけ出していく方法を体験的に学ぶ。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。 			
到達目標1	保育現場における現代的テーマについて、考察することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	ワークシート記入および提出(50点)	
到達目標2	テーマについて、調査・分析・考察・プレゼンテーションする技術、能力を身に付けることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	課題提出及びプレゼンテーション能力(50点)	
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> ①ワーク記入を通して、保育力向上を目指す。 ②選択課題を通して、現場の即戦力につなげる。 ③ドキュメンテーション作成を通して、考察する力を養う。 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション ～保育実践演習の進め方～ 2 テーマの設定(自分の興味を探る) 3 テーマの設定(グループディスカッションでテーマを決める) 4 文献検索(論文、書籍、雑誌、ジャーナル等) 5 文献検索(論文、書籍、雑誌、ジャーナル等) 6 ★中間報告発表会(グループごと) 7 文献検索及び、研究レポート・発達資料作成(文集orパワーポイント) 8 文献検索及び、研究レポート・発達資料作成(文集orパワーポイント) 9 文献検索及び、研究レポート・発達資料作成(文集orパワーポイント) 10 文献検索及び、研究レポート・発達資料作成(文集orパワーポイント) 11 ★研究発表会(7人) 12 ★研究発表会(7人) 13 ★研究発表会(7人) 14 ★研究発表会(7人) 15 ★研究発表会(6人) 			
必須テキスト	特に指定なし 適宜資料を配布する			
参考文献	特に指定なし 適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当する。保育現場へスーパーバイザーとして保育への指導・助言を行っている。また、東京大学大学院理学部生物学科に聴講生として通学し、進化学、動物発生学の研究を続けている。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

2023年度 講義要綱

科目	子どもと保育 選択必修 講義		講師	佐藤 博美
授業概要	保育の本質、目的、意義を実践的に学ぶ。 実習生としての基礎知識、技量を身につけ、実習への準備をすすめながら、実習への期待を持つ。			
授業目標	保育所の基本的な事柄を学び、実習について準備を進める。 現場活動を通して、実践で活躍する人材へと成長する。			
到達目標1	実習への準備の基本として、授業に毎回出席する、提出物の期限を守る、報連相を行うことができる。(①コマ目)	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点)、課題(15点)、提出物(15点)	
到達目標2	実習をイメージしながら、実習に必要なスキルを習得する。(②コマ目)	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点)、課題(15点)、提出物(15点)	
授業方法	実習をイメージするために必要な基礎知識を学びと共に、手遊びや折り紙など実践的なスキルを高める。			
授業計画	1 「オリエンテーション」授業のルールと自分の学ぶべき事を理解する 2 「保育所的一天」一日のながれを知り、実習をイメージする 3 「森口先生の特別講演」保育現場の先生の講演により、保育の重要性を理解する 4 「環境図」実習日誌の最初のステップとして、環境図をかくことができる 5 「スケッチブックシアター」の制作と「保育所見学」の準備を行う 6 産学連携現場活動 7 「映像から学ぶ」色々な保育園があり、新人保育士の頑張っている姿から自分の将来をイメージする 8 「実習のながれ」を知り、実習までの道しるべをイメージする 9 「お礼状の書き方」を知り、実践する 10 「実習データDX」を実際に経験しながら、実習への知識を増やす 11 「日誌の書き方①」日誌の基本的な約束ごとを知り、日誌を写す 12 産学連携現場活動 13 「日誌の書き方②」保育所見学したことを日誌に記入する 14 「日誌の書き方③」初めての日誌を完成させ体験をする 15 「まとめ」前期授業の中で実習にむけて自分が成長した事を確認する			
必須テキスト	なし			
参考文献	なし			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育士としての実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2024年度 講義要綱

科目	子どもと遊び	選択必修 講義	講師	荒巻 シャケ
授業概要	あそび歌・パネルシアター・絵本・アナログゲーム・素材遊びなど、さまざまに遊びを体験する中で、自分自身が楽しさを実感しながら遊びについて考えていく授業です。遊びを覚えることが主ではなく、科目名の通りに「子どもと遊び」について考えていくことを一番の柱にしています。授業ごとに振り返りシートの記入があります。			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ○「子どもが」主語になることを意識しながら遊びについて考えていく。 ○自分の中の子ども心と向きあっていく ○友達と対話しながら遊びを深めていく ○遊びとは?について考える ○べき・ねばならないから解放される 			
到達目標1	○一つの遊び方にとらわれず、いろんな角度で遊びを考えられるようになる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業内の遊びへの積極性 50点	
到達目標2	○子どもが自発的に遊ぶことへの興味関心を深める。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループワークへの参加姿勢 20点 振り返りシートの記入 30点	
授業方法	授業ごとに遊びのテーマがあり、実際に遊びながら、楽しさを感じたり、時にはグループにわかれて対話しながら、遊びを深めていく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 講師のオリジナルあそび歌で実際に遊ぶ。 2 替え歌創作で、遊びに対する柔軟性を養う 3 パネルシアターの基礎① パネルシアターの基本について学びつつ、パネルシアターを作る。 4 パネルシアターの基礎② 3回目で作ったパネルシアターを実際に動かして体験してみる。 5 子どもの言葉の面白さ・保育者の言葉がけなど、遊びながら言葉について考える。 6 身近な物を使った遊び① 昔懐かしい折り紙や、紙を使った簡単なおもちゃを作って遊ぶ。 7 身近な物を使った遊び② バンダナやハンカチなど、布を使って内に合わせて遊んだり、布で動物など作ったりする。 8 絵本の読み聞かせについて学んだり、赤ちゃん絵本の世界について学ぶ。 9 埼玉県の認定こども園の映像から、子どもの遊ぶ環境について考える。 10 アナログゲーム① 主に3歳～5歳向けのアナログゲームで遊ぶ。 11 アナログゲーム② 主に5歳～8歳向けのアナログゲームで遊ぶ。 12 簡単なあやとりで遊びつつ、あやとりの歴史についても知る。 最終課題の発表とグループ決め。 13 課題の準備日1日目 14 課題の準備日2日目 15 各グループごとに調べた「遊び」について発表する。 			
必須テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ○パネルシアターキット モクモクくものレストラン ○その他、授業ごとに必要な物はお知らせします。 			
参考文献	必要に応じて授業ごとに紹介			
担当教員の専門分野等	年間120公演以上の子ども達との豊富なあそび歌実践。 保育士としての実務経験。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2024年度 講義要綱

科目	子どもの食と栄養実習		選択必修 講義	講師	高尾 優
授業概要	子どもの食と栄養の講義で学んだことを基礎として実際に献立の作成や調理を行う。乳児期から幼児期にかけて食事の形態がどのように変化していくのか、どのように調理するのか実習を通して学習する。また、子どもへの食育について計画し、実施する。				
授業目標	1. 子どもの発育・発達と食生活の関連について実践する。 2. 保育における食育について考え実践する。				
到達目標1	子供の食について口腔機能の発達と食事形態を理解し、離乳食や幼児食が作れるようになる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	離乳食・幼児食実習への取り組みおよび課題の提出(50点)		
到達目標2	子供の食の問題について考え、問題を改善するための食育を行うことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	食育の課題の作成および発表(50点)		
授業方法	子どもの成長の段階に合わせた調理実習。 食育の計画、媒体の作成、発表を行う。				
授業計画	1 オリエンテーション 栄養計算と献立作成について 2 献立作成実習 栄養バランスの取れた食事について考え献立を作成する 3 調乳、離乳食の説明 4 調乳実習 5 離乳食実習1 (5～6か月、7～8か月) 6 離乳食実習2 (9～11か月、12～18か月) 7 幼児食について考える 8 幼児食実習(幼児の間食) 9 アレルギー食説明 10 アレルギーのある子供の食事を計画する、アレルギー児への対応について 11 子供の食の問題点について 12 子供の食の問題点を改善するための食育について 13 食育媒体を作る 14 食育媒体を作る 15 食育発表				
必須テキスト	1年次の子供の食と栄養で使用したテキスト				
参考文献					
担当教員の専門分野等	小児栄養学(食育・食物アレルギー)				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科目	合唱と合奏		選択必修 講義	講師	楠野 麻衣、国友 真知子、白鳥 久代、山崎 洋子、浦 啓子、大須賀 かおり、竹田 えり
授業概要	1年次に学んだ子どもの歌を中心としたレパートリーについてどのように現場で子どもたちと楽しんでいくか、自ら工夫しながら、コードによる簡易伴奏も含めより良い支援の方法を身に付けていく。15回の授業をピアノ等個人レッスン7回、クラス全体での歌遊びや合唱の授業8回(オンライン授業も含む)に設定し、ほぼ隔週に受講していき、保育実習に向けて実践力を養う。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容とねらいを理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を自身のスキルに合わせて自ら工夫して実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	個人レッスン(ピアノ等)では保育実習に向けて生活の歌や現場ですぐ楽しめる曲を2~3曲仕上げる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンや自主練習への能動的な取り組み(20点) 実技試験発表(30点)		
到達目標2	全体授業では、環境、生活、人間関係等、様々なねらいに応じた歌遊びの現場での楽しみ方を身に付け、またハーモニー(合唱)を演習し、互いに聞き合い、協働の喜びを共有することが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)		
授業方法	15回の授業をピアノ個人レッスン7回、クラス全体での歌遊びや合唱の演習授業8回(オンライン授業も含む)に設定し、ほぼ隔週に受講していく。 ★13回目はピアノ等個人レッスンの実技試験発表、15回目は歌遊び合唱等の全体授業の実技試験発表となります。				
授業計画	1 全体授業。オリエンテーション。ピアノ個人レッスンのグループ分け、15回の配分、進度表の書き方等の確認。 2 個人レッスン(ピアノ等) ★開始時はポータルで発表される指定のレッスン室へ集合してください。 3 全体授業。現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法)子どもの歌や合唱、リズム遊び等の演習、実習への準備。 4 個人レッスン。 5 全体授業。 6 個人レッスン。 7 全体授業。 8 個人レッスン。 9 全体授業。 10 個人レッスン。 11 全体授業。 12 個人レッスン。実技試験リハーサル等。 13 個人レッスン実技試験発表。 14 全体授業。歌遊びや合唱の実技試験リハーサル等。 15 全体授業。実技試験発表(小グループまたは全体で)				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱい』教育芸術社 ※対面時は”有線イヤホンorヘッドホン”をお持ちください				
参考文献	日本児童教育専門学校編『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編 『子どものための音楽表現技術』萌文書林				
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。日本ダルクローズ音楽教育学会、全日本リトミック音楽教育研究会会員。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育教材研究	選択必修 講義	講 師	加藤 ふじこ
授業概要	<p>これまで獲得した基礎的な造形技法や、実習における実践的視点を踏まえ、多種多様な道具材料を工夫して課題制作を行う。 また、現場での子どもの造形活動における認識を深めるために、自ら「失敗を恐れず遊びの中で想像力を養う子どもの造形活動」を体験する。 これにより、造形活動の指導のポイントや子どもの表現活動の援助について学ぶ。</p>			
授業目標	<p>子どもの創作活動を追体験し、想像力を広げる。将来の現場実践のため、教材について視野を広げる。</p>			
到達目標1	授業に参加し、保育教材としての造形を理解する。そして授業時間内に製作できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への参加。取り組んだ内容、回数で評価する(常識的に考えて相応しくない受講態度の場合、評価できない) 45点+創意工夫5点	
到達目標2	将来、子どもの遊びを援助するため、幼児の絵画を理解し、造形技術を習得、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	作品提出(作品を撮影しteamsに画像を提出。提出回数やコメント、締切日厳守で評価する 45点 +その他 ①グループワーク等での周囲との協力 ②制作後の清掃・片付け等の社会的マナー ③期日までの課題提出、出席状況、課題提出状況等の自己管理能力等 5点	
授業方法	1.実技 2.座学 (基本毎回課題提出)* 社会情勢や進行状況により内容や順番を適宜変更			
授業計画	<p>1 前提講義:講師挨拶、授業受講のルール、コウモリ、クロネコの制作</p> <p>2 お面づくり:画用紙等</p> <p>3 絵画の援助:講義:レポート提出:苦手な子への援助等(オンライン)</p> <p>4 衣装づくり:ポリ袋(進行状況によっては他の授業をなくし2週間行う)</p> <p>5 素材研究:アルミホイル:粘土のように自由な形を作る</p> <p>6 素材研究:ボンド:ボンドに絵の具を混ぜ、形を整える</p> <p>7 レッジョの座学:講義:笑い顔と泣き顔</p> <p>8 レッジョの実践①:屋外活動:自然物で絵画制作</p> <p>9 感触を楽しむ:講義:レポート提出:泥遊び等(オンライン)</p> <p>10 フィンガーペイントによる絵画制作</p> <p>11 レッジョの実践②:光を用いた作品制作</p> <p>12 紙の加工:はらぺこあおむし</p> <p>13 イラスト練習:簡単な絵の描き方:季節の絵</p> <p>14 虫ピンを使った動く工作またはリサイクル廃材を用いた制作</p> <p>15 お花紙を使った絵画製作または手作り双六遊び</p>			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	加藤ふじこ:絵本作家、イラストレーター			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・身体表現遊びⅡ 選択必修 1単位 講義		講 師	菊池 一英
授業概要	子どもの遊びは生活そのものであることを学びます。また、様々な遊びを通して、保育実践力を身に付けます。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	1. 様々な身体表現遊びを経験し、子ども達の前で柔軟に対応できるようになる。 2. 実技とDVD視聴により、様々な遊びの指導方法を身に付けることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実技種目への貢献度(30点)身体表現遊びの表限度(20点)	
到達目標2	3. 企画会議に参加し、独自の運動会を計画・立案する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	企画会議への参加度(30点)運動会の企画立案のプレゼン力(20点)	
授業方法	実技科目に参加する。運動会企画会議を立ち上げ、企画、立案をプレゼンテーションをする。			
授業計画	1 ふれあい遊びいろいろ(ラブラブ握手他) 2 身体表現遊びいろいろ(洋風おべんと箱他) 3 野外での集団遊び(探検ビンゴ！) 4 身体表現としての手遊びいろいろ 5 野外遊びのいろいろ<お陽さまこどもクラブ実践DVD視聴> 6 集団遊びいろいろ(ワン、ニャン、プー仲間よ集まれ他) 7 独自の身体表現プレゼンテーション 8 水遊びいろいろ 9 身体表現まねっこ歩き(BGMに合わせて表現) 10 運動会に向けての企画会議(1) 11 野外でのロープ遊びいろいろ<DVD視聴> 12 運動会に向けての企画会議(2) 13 運動会に向けての企画会議(3) 14 運動会に向けての企画会議(4) 15 運動会に向けての企画会議(5)(プレゼンテーション)			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』メイト 菊池一英著			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	30 %	専門的知識・技術	20 %

2023年度 講義要綱

科目	保育内容の理解と方法・音楽遊びⅡ 選択必修 講義	講師	音楽科担当講師	
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。コードネームによる簡易伴奏の仕組みを知り、まずハ長調の曲で演習していく。 ※個人レッスンの待機時間も含め、電子ピアノで自主練習をおこなう際、感染予防のため必ずイヤホンまたはヘッドフォンを持参してください。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	・教科書や「はじめての弾き歌い」のハ長調のコードネームによる弾き歌い等について自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨み、子どもたちへの視点を持った弾き歌いが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(50点)、実技試験発表(50点)	
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、環境、生活、人間関係等のそれぞれの歌のねらいを知り、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(50点)、実技試験発表(50点)	
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。			
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A) (B)2グループに分かれて45分で入れ替わる 2 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。) 4 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法) 5 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。 6 産学連携 7 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)わらべ歌・手遊び歌の演習 8 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 9 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)リトミックを含む歌遊びの演習 11 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。 12 産学連携 13 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A) (B)共 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A)(B)共			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱい』教育芸術社			
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編			
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	40% %

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊びⅡ 選択必修 講義	講 師	高木 秀文
授業概要	親しみのある画材や身の回りにある素材を使って表現活動する「造形」を子どもと一緒にあそぶように保育者自身も楽しめるための知識と技能を身につける。		
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。		
到達目標1	子どもの造形活動を深く理解して寄り添い、指導と同時に支援する行動を自ら取ることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	製作課題への積極的な取り組み(30点)、特定課題(事前告知)の仕上がり(20点) 意欲的な取り組みを評価します。
到達目標2	季節や行事に沿った造形遊びのアイデア、引き出しを増やして子どもに向けた幅広い造形活動ができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	製作課題への積極的な取り組み(30点)、特定課題(事前告知)の仕上がり(20点) 意欲的な取り組みを評価します。
授業方法	幼児期の絵画表現を再現して造形活動への理解を深める。 身近な素材を使った製作物を作り、成果を共有する。		
授業計画	<p>1 オリエンテーション 授業内容、教材、用具、評価の説明。 児童画鑑賞とコメントの共有をします。</p> <p>2 紙工作 頭身人形 人形の年齢、性格、キャラクターを反映させた人形を考えて作ります。</p> <p>3 頭身人形のお話作り 2回目で製作した人形を共有し、グループ毎に人形を組み合わせたストーリー展開を考えます。</p> <p>4 身近な素材を使ったおもちゃ 飲料などの紙パックを用いて年齢別に適したおもちゃを作ります。</p> <p>5 朝と昼と夜の絵 幼児期に特徴的な多視点の表現の実例を観察し、実際に絵を描いて理解を深めます。</p> <p>6 吊り下げ遊具メリー作り 乳児向けの遊具を紙皿や紙粘土を使って製作します。</p> <p>7 飛び出すメッセージカード メッセージを送る相手と飛び出しの工夫を考えてカードを製作します。</p> <p>8 吊り下げ遊具メリー作り2 6回目の製作の仕上げと作例の共有をします。</p> <p>9 動物ワッペン 複数の動物の顔の特徴を活かして描き分けをします。</p> <p>10 落ち葉の壁飾り 落ち葉、枯れ枝、木の実など自然物の形を活かした装飾を考えます。</p> <p>11 音の出るおもちゃ ペットボトル、空き箱を用いた楽器あそびが出来るおもちゃを考えます。</p> <p>12 まゆ玉転がし ビー玉を使って不規則に動くまゆ玉が転がる盤面を考えます。</p> <p>13 型押し版画 スポンジと絵具ではんこ押しの連続模様を作ります。</p> <p>14 絵本のお話の続きを考える 既成の物語のその後の展開や別の進行を考えます。</p> <p>15 ペットボトルの万華鏡 ペットボトルの中に入れる材料が流動的に動く工夫を考えます。</p>		
必須テキスト	特になし		
参考文献	授業内で適宜紹介します。		
担当教員の 専門分野等	絵画(日本画)制作。文化財修復技師。幼稚園の課外造形授業、美術研究所の児童画教室の勤務歴あり。		

この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	15 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2024年度 講義要綱

科目	保育内容の理解と方法・言葉遊びⅡ	選択必修 講義	講師	奥谷 敏彦、本多 ちかこ
授業概要	[本多]紙芝居の特性を知り、演じ方と制作を学ぶ。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	[本多] 紙芝居を作り演じることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	[本多] 紙芝居の制作(30点)、発表(20点)	
到達目標2	[本多] 紙芝居の特性を知り、演じることによって、子どもと楽しくコミュニケーションをとることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	[本多] 授業への出席状況(30点) 授業への取り組み度(20点)	
授業方法	[本多]紙芝居制作と実演のワークショップ及び講義 ※授業計画の順番はクラスにより異なります。 別紙オムニバス科目授業日程をご確認ください。			
授業計画	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6	[本多]1 さまざまな紙芝居を見よう		
	7	[本多]2 紙芝居を作ってみよう		
	8	[本多]3 実演のポイントを知ろう		
	9	[本多]4 紙芝居の歴史と特性を知ろう		
	10	[本多]5 舞台を使って演じてみよう		
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
必須テキスト				
参考文献				
担当教員の専門分野等	本多:紙芝居の実演、作家			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

2024年度 講義要綱

科目	保育実習指導Ⅱ 選択必修 講義	講師	佐藤 博美	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅰについて、グループディスカッション・個人面談・実習体験発表を通じて振り返り、評価・反省に基づいて自己課題を理解し必要な学習に取り組む ・保育実習Ⅱで臨む部分実習、責任実習のための準備を行う 			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 			
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に必要な話し合いや発表に積極的に参加し、学んだ知識を活かして自己学習に取り組むことができる。 ・授業内の課題を期日内にきちんと提出することができる。 	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点)、提出物(20点)	
到達目標2	<ul style="list-style-type: none"> ・責任実習、部分実習のために保育教材の製作および指導案の立案が出来る。 ・模擬保育の実践発表を行うことが出来る。 	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	発表・模擬保育(40点)、テスト(20点)	
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習(グループワーク)および実技・発表 ・保育実習Ⅰの振り返りとともに模擬保育の実践、責任実習指導案を完成させるための自己学習 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業オリエンテーション(授業概要・目標・評価方法・持ち物等の説明) 2 主活動の指導計画 3 実習課題と個人票の下書き 4 模擬保育に向けて①(作って遊ぶ活動の選択/ねらい) 5 模擬保育に向けて②(教材準備) 6 保育現場職員とのワークショップ 7 模擬保育に向けて③(導入の意味) 8 模擬保育に向けて④(材料の配布・説明・遊びの展開) 9 試験と模擬保育について確認 10 模擬保育実践1 11 試験「責任実習指導計画」 12 模擬保育実践2 13 模擬保育実践3 14 わくわくタイムの準備と確認事項 15 わくわくタイム(グループワーク) 			
必須テキスト	保育実習指導1aで使用した「フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画」			
参考文献	授業中に適宜紹介			
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭または保育士としての実務経験があり、幼稚園教諭免許状及び保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	5 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	5 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %